

okayama  
art summit  
2022



岡山芸術交流 2022

**DO  
WE  
DREAM  
UNDER  
THE  
SAME  
SKY**

**2022. 9. 30 (FRI) - 11. 27 (SUN)**

**開催報告書**

# 目次

<b>I 開催概要</b>	2
<b>II 展覧会</b>	11
展示会場	12
旧内山下小学校	13
岡山県天神山文化プラザ	21
岡山市立オリエント美術館	31
シネマ・クレール丸の内	35
林原美術館	37
岡山市内各所	39
<b>III 内覧会・レセプション・オープニング</b>	43
内覧会・レセプション	44
オープニング	45
<b>IV 運営</b>	46
<b>V 広報</b>	53
<b>VI 前売引換券・鑑賞券・グッズ・クラウドファンディング</b>	66
前売引換券・鑑賞券	67
グッズ	70
クラウドファンディング	71
<b>VII パブリックプログラム・イベント・連携事業</b>	72
パブリックプログラム	73
イベント	88
連携事業	89
<b>VIII 来場者の状況</b>	93
来場者の状況	94
来場者アンケート調査	95
<b>IX 効果</b>	101
経済波及効果・パブリシティ効果	102
評価	103
<b>X 実行委員会</b>	104
組織	105
収支状況	106

○本報告書は2023年1月31日までの情報を掲載しています。  
 ○特に西暦の記載のない日付は2022年に実施されたものです。  
 ○端数処理を行っているため表中の合計の値が一致しない場合があります。  
 ○文中の敬称は省略しています。

## 岡山芸術交流2022

2022年9月30日(金)から11月27日(日)までの51日間、岡山城・岡山後楽園周辺の10会場で、「Do we dream under the same sky 僕らは同じ空のもと夢をみているのだろうか」をタイトルとした国際現代美術展「岡山芸術交流2022」を開催し、会期中、延べ約17万8千人が来場した。

### 事業推進

- 岡山県・岡山市(自治体)と、民間の公益財団法人の3者が中心となり、経済団体、教育団体、報道、交通事業者、金融機関、文化団体等の官民で組織する実行委員会により事業を推進した。
- コロナ禍での開催となったことなどから、「地元」と「子ども」をキーワードに、地域への浸透や、子どもたちへのアプローチを積極的に行った。

### タイトル・作家・作品

- タイトル・作家・作品選定等のキュレーションを担うアーティストックディレクターには、タイ人アーティストのリクリット・ティラヴァーニャ氏を選任し、国内外13か国から28組の作家が参加した。
- 展覧会タイトルに沿って選定した全105作品(うち新作39作品)には、先鋭的な現代アート作品が揃った。
- リレーショナルアートの第一人者であるリクリット・ティラヴァーニャ氏がアーティストックディレクターを務めたことから、他者と関わりながら作品を作り上げる作家も多く参加し、地元高校生との協働により制作された作品の展示、老舗ライブハウスの監修による展示作品を活用したパフォーマンスの実施、岡山を代表する工芸品の作家や食に携わる方々との連携など、地元も巻き込んだ展覧会とすることができた。また、コロナ禍において人との関わり方の大切さを想起させる作品や、実際に触れることのできる作品、体験できる作品もあり、過去2回の開催(2016年、2019年)に比べ、作品と鑑賞者の距離が縮まり親しみやすくなったとの評価も得られた。

### 会場

- これまでの開催に引き続き、岡山城、岡山後楽園周辺エリアを歩いて楽しむことをコンセプトに、旧内山下小学校ほか9施設を展示会場として選定し、徒歩で周遊できることへの評価も見られた。
- 岡山城や岡山後楽園に加え、美術館、文化施設などエリア内に立地するさまざまな歴史文化資源の特性を活かした展示を展開し、美術鑑賞と観光の融合を図った。

### 運営

- 新型コロナウイルス感染症対策のため、各会場での手指の消毒や検温、検温済みの方へのリストバンドの配付などを徹底した。
- 会場運営をサポートするボランティアのサポートスタッフは、コロナ禍にもかかわらず430人の登録があった。企業からの応募は減少したものの、前年から市内の高校や県内の大学・専門学校に向けて個別に案内を行ったほか、対話型鑑賞の体験講座を開催するなどの取組により、学生の割合が4割を超え、10代・20代の割合は半数を超えた。
- 岡山の歴史・観光、会場運営の実務等に関する研修をオンラインで行うとともに、対話による鑑賞を促す「鑑賞支援ナビゲーター」を養成し、小・中学校等からの来場に対応した。

### 普及

- 市民・県民が展覧会へ来場するきっかけづくりや展覧会に親しんでもらうための取組として、トークイベントや鑑賞ツアーなどの「パブリックプログラム」を実施した。
- 参加アーティストが一堂に会するアーティストトークや小学生がナビゲーター役となる鑑賞ツアーなどに加え、学生グループが取材し新聞形式にとりまとめるジャーナルプロジェクトの実施、展覧会を盛り上げる企画の一般公募、アーティストへのインタビュー動画の制作、一般参加による人文字の作成など新たな取組も実施した。
- 県内の小・中学校等に対し、開催前年度より広く鑑賞を呼びかけ、前回(2019年)の76校を大幅に上回る104校(来場児童生徒数 約7,300人)が来場した。加えて、小学生向けの紹介動画の制作や、来場時に活用できるワークシートの作成などにも取り組み、子どもたちが現代アートに親しみをもち、様々な視点から楽しく鑑賞できる工夫を行った。
- コロナ禍での開催となったことなどから、延べ来場者数は17万8千人となり前年に比べ減少した(前回延べ来場者数31万2千人)。
- 開催の見通しを見極めながら準備を進めたことなどもあり、前売引換券の販売、ウェブサイトの開設、広報物(ポスター、チラシ)の制作などについては、前年に比べ開始時期が遅れ会期直前となった。

# I 開催概要

## 開催概要

### 名称

岡山芸術交流2022 (英)Okayama Art Summit 2022

### 本展タイトル

Do we dream under the same sky 僕らは同じ空のもと夢をみているのだろうか

### 会期

2022年9月30日(金)～11月27日(日)

※開館日数 51日

※月曜は休館。ただし、祝日の場合(10月10日)は、その翌日火曜日を休館

### 開館時間

9:00～17:00(入館は16:30まで)

※シネマ・クレール丸の内は1日1回上映

上映時間 9月30日(金)～10月27日(木) 12:05～

10月28日(金)～11月 3日(木) 11:40～

11月 4日(金)～11月27日(日) 12:05～

※林原美術館 10:00～17:00(入館16:30まで)

※岡山後楽園 9:00～16:00

※岡山城 16:00～21:00

※岡山天満屋 8:00～19:30

### 会場

旧内山下小学校	北区丸の内1-2-12
岡山県天神山文化プラザ	北区天神町8-54
岡山市立オリエント美術館	北区天神町9-31
シネマ・クレール丸の内	北区丸の内1-5-1
林原美術館	北区丸の内2-7-15
岡山後楽園観騎亭	北区後楽園1-5
岡山神社	北区石関町2-33
石山公園	北区石関町7
岡山城中の段	北区丸の内2-3-1
岡山天満屋	北区表町2-1-1

### 参加作家

13か国28組の作家

### 作品数

105作品

## 開催概要

### 主催

岡山芸術交流実行委員会

[会長]

大森雅夫(岡山市長)

[総合プロデューサー]

石川康晴(公益財団法人石川文化振興財団理事長)

[総合ディレクター]

那須太郎(TARO NASU代表/ギャラリスト)

[アーティストックディレクター]

リクリット・ティラヴァーニャ(アーティスト)

[パブリックプログラムディレクター]

木ノ下智恵子(大阪大学21世紀懐徳堂准教授)

### 助成

文化庁/一般財団法人地域創造/公益財団法人吉野石膏美術振興財団

### 後援

在日オーストラリア大使館/ベルギー大使館/ブラジル大使館/

ノルウェー大使館/中華人民共和国駐大阪総領事館/在日メキシコ大使館/

駐日フィリピン共和国大使館/駐日韓国文化院/在東京タイ王国大使館/

ブリティッシュ・カウンシル/在大阪・神戸米国総領事館

### 特別協賛

イシカワホールディングス株式会社/株式会社山陽新聞社/

ちゅうぎんグループ/西日本旅客鉄道株式会社/

日本たばこ産業株式会社岡山支社/株式会社レジストアート

### 協賛

岡山県トヨタ販売店グループ/株式会社サピックス/山陽ヤナセ株式会社/

株式会社トミヤコーポレーション/ナカシマホールディングス株式会社/

RSK山陽放送株式会社/岡山放送株式会社/テレビせとうち株式会社/

医療法人社団岡山純心会グループ/株式会社デンシヨク/

両備グループ 株式会社シンク/ROSSOGRANADA

## 開催経緯

2020年	11月17日(火)	令和2年度第1回実行委員会総会／ アーティストックディレクター(リクリット・ティラヴァーニヤ) 決定
2021年	4月26日(月)	令和3年度第1回実行委員会総会／基本計画発表
	11月8日(月)	令和3年度第2回実行委員会総会／実施計画発表 タイトル「Do we dream under the same sky 僕らは同じ空のもと夢をみているのだろうか」発表
2022年	4月19日(火)	リクリット・ティラヴァーニヤが市長表敬訪問
	5月18日(水)	令和4年度第1回実行委員会総会
	6月6日(月)	ティザーサイト公開
	7月29日(金)	公式ウェブサイト公開
	8月1日(月)	前売引換券販売開始
	8月25日(木)	旧内山下小学校の校庭に芝生アート作品を制作するための クラウドファンディング開始
	9月2日(金)	岡山市役所で横断幕の除幕式開催
	9月29日(木)	記者説明会開催
	9月29日(木)	内覧会(プレス・招待)
	9月30日(金)	岡山芸術交流2022開幕
	9月30日(金)	アーティストトーク開催
	11月9日(水)	延べ来場者数が10万人突破
	11月26日(土)	旧内山下小学校の芝生作品の上に人文字で「OK」を作成
	11月27日(日)	クロージングイベント開催
	11月27日(日)	岡山芸術交流2022閉幕



2021.4.26 令和3年度第1回実行委員会総会



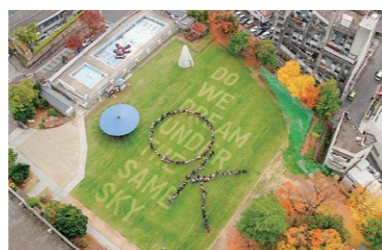
2022.4.19 市長表敬訪問



2022.9.30 岡山芸術交流2022開幕



2022.9.30 アーティストトーク



2022.11.26 人文字作成



2022.11.27 クロージングイベント

## 本展タイトル・ステイメント

## 2022本展タイトル

Do we dream under the same sky  
僕らは同じ空のもと夢をみているのだろうか

## ステイメント

疑問文としてすべての要素を備えていながらも文末に疑問符のないこのセンテンスは、アイデアの入り口にしかすぎません。

この数年間、世界的パンデミックに加え、アメリカ国内の白人至上主義や世界各地のナショナリスト的ポピュリストの趨勢が強まってきたという背景を踏まえて、私はこの展覧会を私たちの意識や視点を変革するものにして考えています。

こうしたさまざまな思いを巡らし、次回の岡山芸術交流2022についてはできれば、旅人という共通の背景を持つアーティストの周辺的な活動に特に集中したいと考えています。旅人、というのは、選定されたアーティストのほとんどが異質な文化的あるいは社会的背景を持っているという意味です。彼らの多くが、活動や制作拠点を西洋の芸術的ヘゲモニーの中心に置きながらも、その(西洋的)ヘゲモニーの中での自らの位置づけにおいては、西洋以外の立場からのアイデンティティが根底にあります。彼らの人生と歴史は、西洋との違いによって形作られているのです。

ここでいう夢は、違いのある空や、多元性のある空で見る夢、つまり、西洋的規範の周縁にある物語表現の中で見る夢を意味しています。私たち(参加者と鑑賞者)からすると自らが規範的とみなす世界の外にある表現を経験するという事です。言い換えると、物語や人生、そして考え方、見方、聞き方、あり方、さらには希望、野心、そして日常の中で心を動かされるような夢を超えた存在の仕方に対して、私たちの目を開かせてくれる夢を意味しています。



アーティストックディレクター：  
リクリット・ティラヴァーニヤ  
Photo by Pauline Assathinay

## Statement

Though written out, without the question marking the end of the sentence, it's only an opening to an idea.

In the past years, the with Global pandemic and the exertion of White Supremacy tendencies in the US as well as Nationalists Populist in many parts of the global world, I like for the exhibition to refocus our mindset and perspectives.

With many of these thoughts in mind, I like the potential of the next Okayama Art Summit to be focused on peripheral practices by artists whom may share in common their itinerant backgrounds. In itinerant, I mean that most of the artists in this selection are coming from cultural and social backgrounds that is diverse. Though they may have their practices and their locations in the center of western artistic hegemony, we could understand that their positioning in that ( western ) hegemony, is based on their identification with positions other than western. That their lives and histories are constructed, in difference, to the west.

The dream here, is to dream in a sky of difference, in a sky of multiplicity, of narratives of representation that is peripheral to the western canon. That the dream is for us ( the participants and the viewer ) to experience representations, which are outside of our normative position. That the dream can open us to stories and lives and ways of thinking, looking, hearing, being, existing beyond the hopes, the aspirations, and dreams that we ourselves are touched by in our daily structures.

Text by:リクリット・ティラヴァーニヤ Rirkrit Tiravanija

## ロゴ

### ロゴマーク



### デザインコンセプト

オーケー(いいね)、岡山。

オーケー(いいね)、岡山芸術交流。

今や世界の共通言語であるオーケー。いいね、を意味する、その2文字の形と音を「オカヤマ」の英語表記と音に重ねたロゴデザイン。オーケーという記号が表す肯定の姿勢を、岡山と岡山芸術交流に反映させ、ロゴデザインを目にした人に岡山への興味、岡山芸術交流への賛同を促す。

### デザイン

ピーター・サヴィル

### ロゴタイプ

okayama  
art summit  
2022

岡山芸術交流 2022

okayama  
art summit  
2022

岡山芸術交流 2022

okayama  
art summit  
2022

岡山芸術交流 2022

岡山芸術交流2022のアートキュレーションが、詩的かつ文学的な作品が多いと感じる特性もあるので、どこかポエティックで文学的なニュアンスを感じられるよう、ローマン体・明朝体の組み合わせで上品かつ格調が高い文章に見える書体を選定。

カラーは、岡山の歴史文化／岡山城などをモチーフとしモノトーンをキーカラーに。そして、空のブルーと融合させた「ブルーグレー」をアクセントカラーとして選定しアイテムにも展開。

### デザイン

川上シュン 株式会社artless

岡山芸術交流2022 デザインディレクター

## 参加作家

### 参加作家

アーティストディレクター／アーティストのリクリット・ティラヴァーニャが選定した22組のアーティストのほか、イベント、グループ、パフォーマンスを含む13か国・28組の作家が参加。

### アーティスト | Artist

1 リクリット・ティラヴァーニャ   タイ	Rirkrit Tiravanija   Thailand
2 ラゼル・アハメド   アメリカ	Rasel Ahmed   United States of America
3 アート・レーバーとジャライ族のアーティストたち	Art Labor in collaboration with Jrai artists
4 王兵(ワン・ビン)   中国	Wang Bing   People's Republic of China
5 ダニエル・ボイド   オーストラリア	Daniel Boyd   Australia
6 リジア・クラーク   ブラジル	Lygia Clark   Brazil
7 アブラハム・クルズヴィエイガス   メキシコ	Abraham Cruzvillegas   Mexico
8 円空   日本	ENKU   Japan
9 池田亮司   日本	Ryoji Ikeda   Japan
10 片山真理   日本	Mari Katayama   Japan
11 マイリン・レイ   アメリカ	My-Linh Le   United States of America
12 デヴィッド・メダラ   フィリピン	David Medalla   Philippines
13 アジフ・ミアン   アメリカ	Asif Mian   United States of America
14 プレシャス・オコヨモン   イギリス	Precious Okoyomon   United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland
15 フリーダ・オルパボ   ノルウェー	Frida Orupabo   Norway
16 ヴァンディー・ラッタナ   カンボジア	Vandy Rattana   Cambodia
17 バルバラ・サンチェス・カネ   メキシコ	Bárbara Sánchez-Kane   Mexico
18 笹本晃   日本	Aki Sasamoto   Japan
19 ジャコルビー・サッターホワイト   アメリカ	Jacolby Satterwhite   United States of America
20 島袋道浩   日本	Shimabuku   Japan
21 曾根裕   日本	Yutaka Sone   Japan
22 アピチャポン・ウィーラセタクン   タイ	Apichatpong Weerasethakul   Thailand
23 梁慧圭(ヤン・ヘギュ)   韓国	Haegue Yang   South Korea

### イベント | Event

24 ペパーランド	PEPPERLAND
25 ゲルト・ロビンス   ベルギー	Gert Robijns   Belgium

### グループ | Group

26 オーバーコート	OVERCOAT
27 伊勢崎州(備前焼)・スミスー三省吾・木口ディアンドレ(烏城彫)	Shu Isezaki(Bizen)・Smith Ethan Shogo・De'Andre Kiguchi(Ujo Bori)

### パフォーマンス | Performance

28 Untitled Band(Shun Owada and friends)	Untitled Band(Shun Owada and friends)
--	---------------------------------------

## アーティストの来岡

作品制作のための展示会場及びその周辺地のリサーチ、作品の展示やレセプション等への出席のため、14組のアーティストが来岡した。

アーティスト	リサーチ等	オープニング前後
リクリット・ティラヴァーニャ	2022年4月18日 - 4月21日 2022年7月24日 - 7月27日	2022年 9月15日 - 10月 3日
ダニエル・ボイド	2022年5月25日 - 5月27日	2022年 9月27日 - 10月 3日
アブラハム・クルズヴィエイガス	2022年6月 5日 - 6月 6日	2022年10月16日 - 10月22日
池田亮司	2021年8月15日	2022年 9月27日 - 9月30日
片山真理	2022年4月21日	2022年 9月25日 - 9月28日
マイリン・レイ	2022年5月25日 - 5月31日	2022年 9月22日 - 9月30日
アジフ・ミアン	2022年7月14日 - 7月16日	2022年 9月24日 - 10月 3日
プレシャス・オコヨモン	2022年7月14日 - 7月16日	2022年 9月25日 - 10月 1日
バルバラ・サンチェス・カネ	2022年5月31日 - 6月 1日	2022年 9月20日 - 9月30日
笹本晃	2021年8月 3日	—
島袋道浩	2022年7月26日	2022年 9月27日 - 9月30日
曾根裕	2021年8月 4日 2022年4月17日 - 4月23日 2022年7月 4日 - 7月 6日	2022年 9月22日 - 10月 3日
アピチャップン・ウィーラセタクン	2022年3月28日 2022年8月21日	2022年 9月24日 - 9月27日
梁慧圭(ヤン・ヘギュ)	—	2022年 9月27日 - 10月 1日

## Ⅱ 展覧会



## 展示会場

開催会場は、岡山城周辺の文化施設が集積するゾーンを中心に、来場者が徒歩や自転車ですべての会場を回ることができるコンパクトなエリアに集中させた有料会場(A~Eの5会場)と無料会場(F~Jの5会場)で構成された。



A 旧内山下小学校



B 岡山県天神山文化プラザ



C 岡山市立オリエント美術館



D シネマ・クレール丸の内



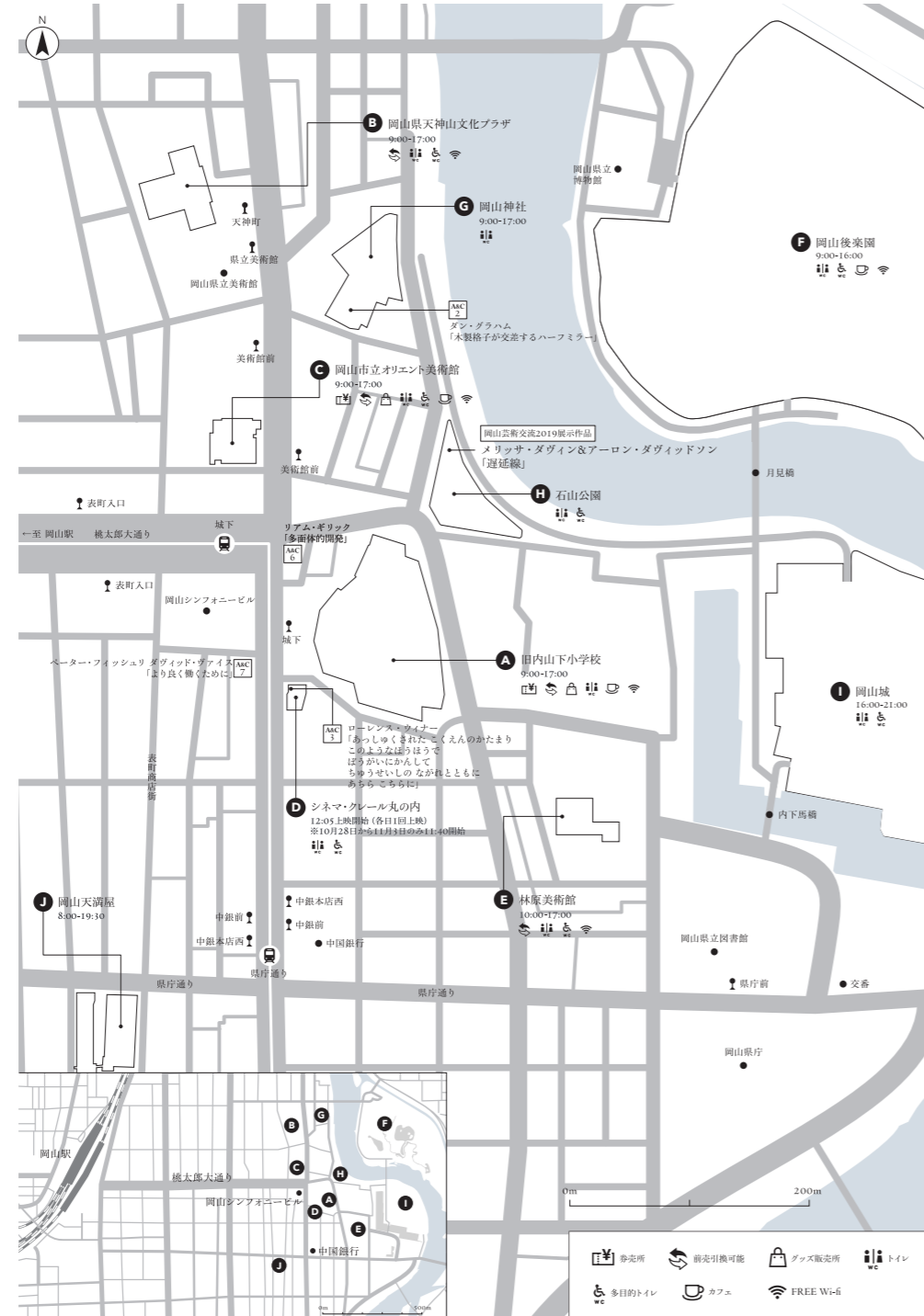
E 林原美術館



F 岡山後楽園(観騎亭)



G 岡山神社



H 石山公園



I 岡山城(中の段)



J 岡山天満屋(表町商店街側ショーウィンドウ)

# A






## 旧内山下小学校 Former Uchisange Elementary School



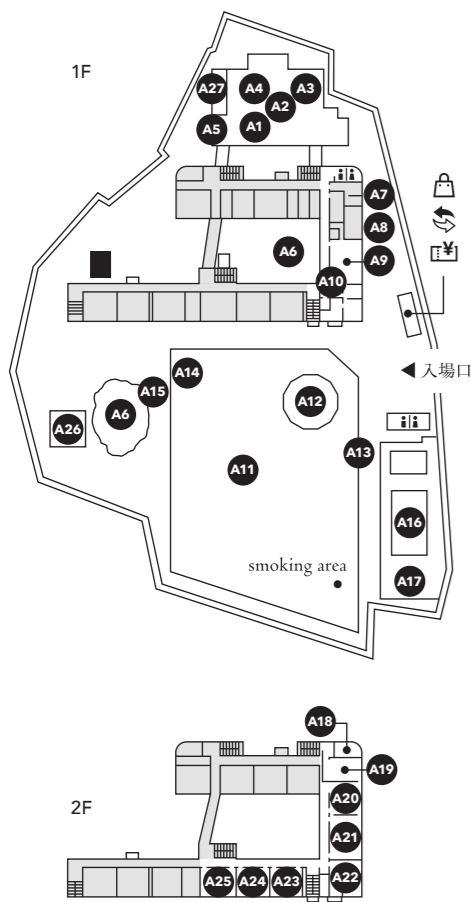
旧内山下小学校は、1887年5月、市内小橋町の国清寺内に創立され、1890年8月に岡山城西の丸跡地に移転し、2001年3月の閉校まで同地にあった。現在残る校舎は、1933年、1934年に南棟が竣工し、その後1937年に東棟、北棟と渡り廊下が増設され、全館が竣工した。市内最古の鉄筋コンクリート造建築の校舎で、比較的簡素な造形の中に当時流行りの様式の反映も見られ、文化財的視点から見ても、貴重な建築物である。



# A 旧内山下小学校 有料 (校庭・プール無料)

会場 校舎(1階・2階・中庭)、体育館、校庭、プール  
 鑑賞券販売、前売引換、グッズ販売、Wi-Fiスポット、インフォメーション     

作品 34作品



- A6** アジフ・ミアン  
Asif Mian  
《無煙の火》  
Smokeless Fire
- A7** ヴァンディー・ラッタナ  
Vandy Rattana  
《モノローグ》  
MONOLOGUE
- A8** ヴァンディー・ラッタナ  
Vandy Rattana  
《…遠い、向こうの、海》  
...far away, over there, the ocean
- A9** ヴァンディー・ラッタナ  
Vandy Rattana  
《葬式》  
Funeral
- A10** 片山真理  
Mari Katayama  
《後楽園のソテツ》  
cycadopsida
- A11** リクリット・ティラヴァーニヤ  
Rirkrit Tiravanija  
《僕らは同じ空のもと  
夢をみているのだろうか》  
DO WE DREAM UNDER THE SAME SKY
- A12** ゲルト・ロビンス  
Gert Robijns  
《リセット モバイル(スカイ)》  
Reset Mobile (Sky)
- A13** 伊勢崎州(備前焼)、スミスー三省吾、  
木口アランドレ(烏城彫)  
Shu Isezaki (Bizen), Smith Ethan Shogo,  
De'Andre Kiguchi (Ujo Bori)  
《Bizen x Ujo bori》  
Bizen x Ujo bori
- A14** 曾根裕  
Yutaka Sone  
《ダブル・ログ(鷲の山凝灰岩)》  
Double Log (Washinoyama Tuff)
- A15** 曾根裕  
Yutaka Sone  
《雪豹(鷲の山凝灰岩)》  
Snow Leopard (Washinoyama Tuff)
- A16** プレシャス・オコヨモン  
Precious Okoyomon  
《太陽が私に気づくまで  
私の小さな尻尾に触れている》  
Touching My Lil Tail Till the Sun Notices Me
- A17** オーバーコート  
OVERCOAT  
《COME TOGETHER》  
COME TOGETHER

- A18** 島袋道浩  
Shimabuku  
《わけのわからないものを  
どうやってひきうけるか》  
How do you accept something  
you don't understand?
- A19** 片山真理  
Mari Katayama  
《possession》  
#2274, #2297, #2355,  
#2404, #2411, #2429,  
#2499, #2523  
«possession»  
#2274, #2297, #2355, #2404, #2411,  
#2429, #2499, #2523
- A20** アジフ・ミアン  
Asif Mian  
《無と妖怪》  
Nothingness and Specter
- A21** 島袋道浩  
Shimabuku  
《白鳥、海へゆく》  
Swan Go to the Sea
- A22** ダニエル・ボイド  
Daniel Boyd  
《無題(34° 39'53.9"  
N 133° 55'54.8"E)》  
《無題(DOWM)》  
《無題(GB5)》  
《無題(SDAW)》  
《無題(FJ)》  
untitled (34°39'53.9"N 133°55'54.8"E)  
untitled (DOWM)  
untitled (GB5)  
untitled (SDAW)  
untitled (FJ)
- A23** アピチャットポン・ウィーラセタクン  
Apichatpong Weerasethakul  
《静寂という言葉は静寂ではない》  
The Word Silence Is Not Silence
- A24** バルバラ・サンチェス・カネ  
Bárbara Sánchez-Kane  
《悪臭の詩》  
Versos Rancieros [Rancid verse]
- A25** 笹本晃  
Aki Sasamoto  
《天気予報 #1》  
《天気予報 #2》  
《未来形の過去、テーブル 3》  
Weather Bar Forecast#1  
Weather Bar Forecast #2  
Past in a future tense, Table 3
- A26** マイリン・レイ  
My-Linh Le  
《良い夢の鬼》  
demons of good dreams
- A27** ダニエル・ボイド  
Daniel Boyd  
《無題(ACTTIO)》  
untitled (ACTTIO)

- A1** リクリット・ティラヴァーニヤ  
Rirkrit Tiravanija  
《無題2017(オイル ドラム ステージ)》  
Untitled 2017 (Oil Drum Stage)
- A2** 曾根裕  
Yutaka Sone  
《アミューズメント・ロマーナ》  
Amusement Romana
- A3** ダニエル・ボイド  
Daniel Boyd  
《無題(SOAGS)》  
Untitled (SOAGS)
- A4** ペパーランド  
PEPPERLAND  
《Diverse expressions of the stage  
will transform Okayama society》  
Diverse expressions of the stage  
will transform Okayama society
- A5** Untitled Band  
(Shun Owada and friends)  
Untitled Band(Shun Owada and friends)

# A 旧内山下小学校 有料 (校庭・プール無料)

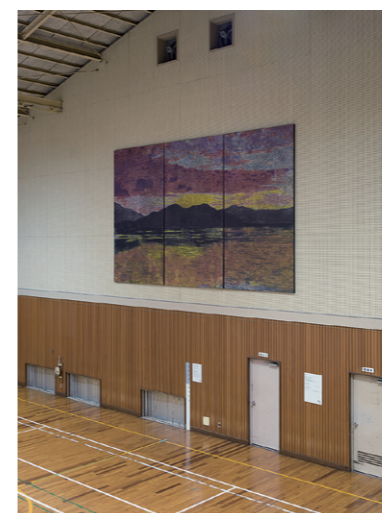
## 展示作品



**A1** リクリット・ティラヴァーニヤ  
《無題2017(オイル ドラム ステージ)》



**A2** 曾根裕  
《アミューズメント・ロマーナ》



**A3** ダニエル・ボイド  
《無題(SOAGS)》



**A4** ペパーランド  
《Diverse expressions of the stage  
will transform Okayama society》



**A5** Untitled Band(Shun Owada and friends)

リクリット・ティラヴァーニヤ  
1961年、アルゼンチン、ブエノスアイレス生まれ。  
タイアーティストであるティラヴァーニヤは、料理や食、読書といった日常的な行為の共有を通じて観客と交流する場を設け、従来の展示形式をくつがえす表現で知られる。芸術作品の優位性を否定し、作品の使用価値および単純な行為と助け合いによって人と人をつなげる空間を構築することで、労働やアート鑑賞の在り方に挑む。現在、米・コロンビア大学芸術大学院教授を務める。アーティスト・美術史家・キュレーターによる共同プロジェクト「UtopiaStation」創設メンバーであり、キュレーター。また、タイのチェンマイ近郊にある教育および環境保全プロジェクト「The Land Foundation」の設立にも携わる。

曾根裕  
1965年生まれ。中国、メキシコ、ベルギー、日本にて活動を行う。  
主な個展に2017年「Obsidian」四方当代美術館(南京)、2016年「Day and Night」デイヴィッド・ツヴィルナー(ニューヨーク)、2011年「Perfect Moment」東京オペラシティアートギャラリー、2006年「Like Looking for Snow Leopard」コンストハル・ベルン、2002年「ダブル・リバー島への旅」豊田市美術館(愛知)など。主なグループ展に2019年「東京インディペンデント」東京藝術大学美術館陳列館(東京)、2018年「Sanguine: Luc Tuymans on Baroque」プラダ財団(ミラノ)、2004年ホワイトニービエンナーレ(ニューヨーク)、2003年「ハテロピアス(他なる場所) 曾根裕 小谷元彦」第50回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館、2001年「EGOFUGAL」第7回イスタンブール・ビエンナーレ、1997-1999年「移動する都市」(ウィーン、ボルドー、ニューヨーク、フムレバク、ロンドン、バンコク、ヘルシンキ)、1997年コンスタント・プロジェクトなど。

ダニエル・ボイド  
1982年、オーストラリア、ケアンズ生まれ。現在はシドニーを拠点に活動。  
時間、空間、文化、個人の体験の複数性に関する作品制作を行う。ボイドの絵画、映像、インスタレーション作品は私的でありながら同時に歴史的、形而上学的の広がりを持ち、私たちが個人あるいは集団として文化的・個人的記憶を構築する際にもなう複雑な視点を掘り下けている。キュレーターにコスミン・コステナス、共同キュレーターにシーラー・ラジバンダリとヒットマン・グルンを迎えたカトマンズトリエンナーレ2017(2022年、ネパール)や、オクワイ・エンヴェゾーがキュレーターを務めた第56回ヴェネツィア・ビエンナーレ(2015年)、ボゴリアン財団主催、ハンズ・ウルリッヒ・オプリストとアサド・ラザがキュレーションを手がけた「Mondialité」ウィリアムソン(2017年、ブリュッセル)、デイヴィッド・エリオットがキュレーターを務めたモスクワ国際ヤングアート・ビエンナーレ(2014年)、クイーンズランド州立美術館で開催された第7回アジア・パシフィック・トリエンナーレ(2012年、オーストラリア)、ジティッシュ・カラットがキュレーターを務めたコチ=ムジリス・ビエンナーレ(2014年、インド・コチ)、ブレンドラ・L・クロフトがキュレーションを務め、オーストラリア国立美術館で開催されたNational Indigenous Art Triennial(先住民アート・トリエンナーレ、2007年、オーストラリア・キャンベラ)、イソベル・パーカー・フィリップおよびエリン・ウィングがキュレーターを務めた「Treasure Island」ニューサウスウェールズ州立美術館(2022年、シドニー)など、その活動実績からこれまでに多数の主要なビエンナーレ・展示に参加。

ペパーランド Live House PEPPERLAND  
ライブハウスという存在が全国でも珍しかった黎明期の1974年に設立。アンディ・ウォーホルの映像作品に登場する「エクスプローディング・プラスチック・インヴェイタル」のような場所をつくらせとスタートし、岡山にライブ文化を定着させた老舗である。設立当時から音楽と共に映画、演劇、講演会、ポエトリー・リーディング、など、あらゆる文化領域を横断・接続・混淆する活動を重視してきた。次の時代のビジョンを連れてくる最も早いメディアが音楽であり、ジャンルにこだわらず若い感覚に宿る衝動を尊重し、受け止め、深め育てる姿勢を貫き通している。音楽を通じて「社会彫刻」するシチュアショニストの活動を尊重し、店内にはヨーゼフ・ボイスのシャツとサイン入り写真が展示されているライブハウスは類例をみない。

Untitled Band (Shun Owada and friends)  
大和俊俊を中心に、木村匡生、曾根裕、村岡充らアーティストで構成されるバンド。曾根裕の声かけにより、2021年秋に岡山で結成。

# A 旧内山下小学校 有料 (校庭・プール無料)

## 展示作品



A6 アジフ・ミアン  
《無煙の火》



A6 アジフ・ミアン  
《無煙の火》



A10 片山真理  
《後楽園のソテツ》

### アジフ・ミアン

1978年、ニュージャージー州ジャージーシティ生まれ。ニューヨーク州ブルックリン在住。ドローイング、彫刻、映像、パフォーマンスを交えながら、暴力の作用と知覚を考察した作品を展開。個人的・集団的体験を引き合いに、「交換」「埋め込み」「混成」を通して日常の物や行為を心理的に転換させている。「イベント・スカルプチャー（出来事の彫刻）」と称して絨毯をつなぎ合わせた立体作品や、威嚇行為をパフォーマンスに変容させた作品、ドローンの赤外線カメラの映像を用いたビデオインスタレーションなど、その表現手法は多岐にわたる。2022年「Artadia New York Award」のファイナリストに選出。2020年度「Queens Museum-Jerome Foundation Fellowship」を受賞し、2021年にクイーンズ美術館（ニューヨーク）で個展「RAF: Prosthetic Location」を開催。その他、2019年にはザ・キッチン（ニューヨーク）にてホイットニー美術館のIndependent Study Program (ISP) が企画した「Always, Already, Haunting, "diss-co," Haunt」, ザ・シェッド（ニューヨーク）が主催する「Open Call」プログラムや、ブルックリンのBRIC（ニューヨーク）での「Beyond Geographies: Contemporary Art and Muslim Experience」、2018年のクイーンズ美術館の「Queens International: Volumes」など、数々のグループ展で作品が紹介されている。



A7 A8 A9 ヴァンディー・ラッタナ  
《モノローグ》《…違い、向こうの、海》《葬式》

### ヴァンディー・ラッタナ

1980年生まれ。現在は台湾の台北を拠点に活動。クメール・ルージュ後のカンボジアに生まれ、プノンペンで育つ。穏やかで静かなイメージを通して暴力の歴史を表現する。2005年に写真家としての活動を開始。様々なアナログカメラとフィルム・フォーマットを用いて、厳格なフォトジャーナリズムと芸術的実践の境界をまたがる連作を発表している。近作では、歴史的文献とイメージ構築の関係性をめぐる哲学へ視点を向けている。ラッタナにとっての写真とは虚構の構築物であり、抽象的かつ詩的な表層、かつそれ自身の歴史の語り手でもある。爆弾跡（クレーター）を収めた写真およびドキュメンタリー作品「Bomb Ponds」（2009年）では、1964年から1973年にかけてのアメリカの絨毯爆撃を生き延びたカンボジア人の心の傷を表現。以降、カンボジアの地方的牧歌的な風景をファインダーで捉え、悲惨な過去を蘇らせている。初の短編映像作品「MONOLOGUE」（2015年）を経て、2018年には「FUNERAL」、2019年には「...far away, over there, the ocean」を発表。主な個展は、2020年国立台北芸術大学（台湾）、2018年ギャラリー・シャトー・ドール（フランス・トゥールーズ）、2015年2013年CAPC（フランス・ポルドー）、2013年アジア・ソサイエティミュージアム（ニューヨーク）など。主なグループ展に、2020年釜山ビエンナーレ（韓国）、2019年シンガポール・ビエンナーレ（シンガポール）、2019年ユダヤ博物館（フランクフルト）、2019年山口情報芸術センター（山口）、2019年高雄立美術館（KMFA）（台湾）、2017年 Galerie Faux Mouvement（フランス・メッス）、2017年森美術館（東京・六本木）、2015年東京都現代美術館（東京）、2013年横浜美術館（神奈川）、2012年ドクメンタ13（ドイツ・カッセル）などがある。

### 片山真理

1987年、埼玉生まれ。群馬県育ち。2012年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修士課程修了。自らの身体を模した手縫いのオブジェ、ペインティング、コラージュのほか、それらの作品を用いて細部まで演出を施したセルフポートレートなど、多彩な作品を制作。アーティストとしての活動に留まらず、歌手、モデル、講演、執筆など、幅広く活動している。作品制作以外の主なプロジェクトとして、2011年より「ハイヒールプロジェクト」を展開。特注の義足用ハイヒールを装着し、ステージに立っている。主な展示に2021年「home again」（ヨーロッパ写真美術館、パリ）、2019年「第58回ヴェネチア・ビエンナーレ」（ヴェネチア）、「Broken Heart」（White Rainbow, ロンドン）、2017年「無垢と経験の写真 日本の新進作家 vol.14」（東京都写真美術館、東京）、「帰途-on the way home-」（群馬県立近代美術館、群馬）、2016年「六本木クロッシング 2016展: 僕の身体、あなたの声」（森美術館、東京）、2013年「あいとりエンターレ2013」（愛知）など。主な出版物に2019年「GIFT」United Vagabondsがある。2005年に群馬青年ビエンナーレ奨励賞、2012年アートワードトローキーオー丸の内2012グランプリ、2019年第35回写真の町東川賞新人作家賞、2020年第45回木村伊兵衛写真賞を受賞。

# A 旧内山下小学校 有料 (校庭・プール無料)

## 展示作品



A11 リクリット・ティラヴァーニヤ  
《僕らは同じ空のもと夢をみているのだろうか》  
A12 ゲルト・ロビンス  
《リセット モバイル(スカイ)》  
A14 曾根裕  
《ダブル・ログ(鷲之山凝灰岩)》  
A16 プレジャス・オコヨモン  
《太陽が私に気づくまで私の小さな尻尾に触れている》



A14 曾根裕  
《ダブル・ログ(鷲之山凝灰岩)》

### ゲルト・ロビンス

1972年、ベルギー、シントロイトデン生まれ。現在は同国ポルフォーンを拠点に活動。見慣れた物を大掛かりなオブジェや異様なものに変化させるなどし、奇抜な構造物を制作。日常的な物体から既存の枠組みを取り除くことで物の文脈から日常性を解体し、同時にその表面下に潜む詩的な特性の情景を因る。過去10年間にわたり、(社会的) 景観の再生と再評価を主軸とする「RESET」シリーズプロジェクトを各地で展開している。2010年に白色木材と金属で生まれ故郷の小さな町、ゴテムの複製を制作し、75:100の縮尺で教会や牧師館を再現。以来、リンブルフ地域の炭鉱の歴史を振り返る「Reset Charbon」や、世界各地で仮設の構造物を建てフリースペースとして活用する「Reset Mobile」などさまざまなプロジェクトを発表し、「RESET」のコンセプトを追求している。1992年~1996年までブリュッセルのLUCASクール・オブ・アートで学んだのち、オランダ・マーストリヒトのヤン・ファン・エイク・アカデミーの芸術学科で研究活動続ける。その後、ニューヨークのMoMA PS1やベルリンのクンストラーハウス・ベタニエでアーティスト・イン・レジデンスプログラムに参加。2001年よりベルギー・ゲントの王立芸術アカデミーで客員講師を務める。現在、ドミール・シモンズ・ギャラリー（アントワープ）に所属。



A12 ゲルト・ロビンス  
《リセット モバイル(スカイ)》



A13 伊勢崎州(備前焼)・スミース三省吾・木口ディアンドレ(鳥城彫)  
《Bizen x Ujo Bori》  
Featuring : Okayama Ebi Meshi meets Thai Masala Option: Butter Chicken Curry  
Presented by Kaizoku and Rirkrit Tiravanija  
A タイマッサマンカレー B チキンバターカレー(各1,300円)

### 伊勢崎州(備前焼)・スミース三省吾

1972年、ベルギー、シントロイトデン生まれ。現在は同国ポルフォーンを拠点に活動。見慣れた物を大掛かりなオブジェや異様なものに変化させるなどし、奇抜な構造物を制作。日常的な物体から既存の枠組みを取り除くことで物の文脈から日常性を解体し、同時にその表面下に潜む詩的な特性の情景を因る。過去10年間にわたり、(社会的) 景観の再生と再評価を主軸とする「RESET」シリーズプロジェクトを各地で展開している。2010年に白色木材と金属で生まれ故郷の小さな町、ゴテムの複製を制作し、75:100の縮尺で教会や牧師館を再現。以来、リンブルフ地域の炭鉱の歴史を振り返る「Reset Charbon」や、世界各地で仮設の構造物を建てフリースペースとして活用する「Reset Mobile」などさまざまなプロジェクトを発表し、「RESET」のコンセプトを追求している。1992年~1996年までブリュッセルのLUCASクール・オブ・アートで学んだのち、オランダ・マーストリヒトのヤン・ファン・エイク・アカデミーの芸術学科で研究活動続ける。その後、ニューヨークのMoMA PS1やベルリンのクンストラーハウス・ベタニエでアーティスト・イン・レジデンスプログラムに参加。2001年よりベルギー・ゲントの王立芸術アカデミーで客員講師を務める。現在、ドミール・シモンズ・ギャラリー（アントワープ）に所属。

### 鳥城彫

鳥城彫とは1925年、彫刻家の木口九峰によって始められた木彫。繊細な彫りと写実的な表現を特徴とする漆器工芸品である。鳥城彫の名称は、岡山城の別名が「鳥城」ということ由来して木口自らと名付けたという。分業による高い技術力で作りだされる鳥城彫は、岡山の誇る特産品となっている。木口ディアンドレとスミース三省吾は若い鳥城彫職人として伝統と現代の融合に取り組んでいる。木口ディアンドレ 1998年生まれ 米国に生まれ岡山県にて活動 スミース三省吾 1998年生まれ 岡山県にて活動

### プレジャス・オコヨモン

1993年、ロンドン生まれ。現在はニューヨーク市を拠点に活動。ナイジェリア系アメリカ人詩人およびアーティスト。作品を通じて、自然界や移住者・人種化の歴史、日常の中に存在する純粋な楽しみを考察している。これまで、2018年LUMA Westbau (チューリッヒ)、2020年フランクフルト現代美術館(フランクフルト)、2021年Performance Space New York (ニューヨーク)、2021年アスペン美術館(アメリカ・アスペン)で個展を開催。また、第59回ヴェネチア・ビエンナーレ、第58回ベオグラード・ビエンナーレ(セルビア)に出展するほか、パレ・ド・トローキオー(パリ)、LUMAArles(フランス・アルル)でグループ展に参加。2019年、ロンドンのサーベントイン・ギャラリーおよびインスタディテュート・オブ・コンテンポラリー・アート(ICA)から委嘱を受け、パフォーマンス作品を発表。2022年、二作目の詩集「But Did U Die? (でもあなたは死んだの?)」(サーベントイン・ギャラリーおよびWonder Press刊)を出版予定。2020年LUMA Arlesのアーティスト・イン・レジデンスに参加。2021年「Frieze Artist Award」、2022年「CHANEL Next Prize」を受賞。

# A 旧内山下小学校 有料 (校庭・プール無料)

## 展示作品



A15 曾根裕  
《雪豹(鷲之山凝灰岩)》

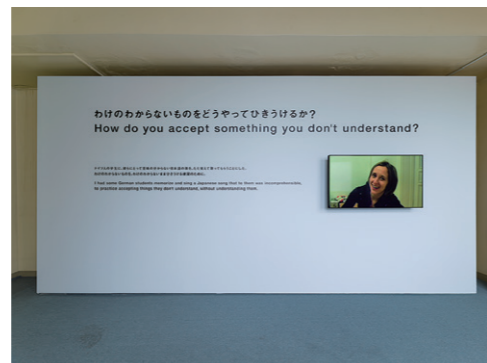


A16 プレシャス・オコヨモン  
《太陽が私に気づくまで私の小さな尻尾に触れている》



A17 オーバーコート  
《COME TOGETHER》

オーバーコート  
OVERCOAT(オーバーコート)はNY在住の大丸隆平(1977年福岡生まれ)が2015年に創立したファッションブランド。「Wearing New York (ニューヨークを着る)」というコンセプトで、特にシヨルダーラインに工夫が凝らされており、サイズ、ジェンダーそしてエイジからも解放されたものづくりを目指している。コレクションは日米を中心とする主要百貨店やコンセプトストアで展開され、アート業界などクリエイティブ層からの支持も高い。



A18 島袋道浩  
《わけのわからないものをどうやってひきうけるか》



A19 片山真理  
(possession #2274, #2297, #2355, #2404, #2411, #2429, #2499, #2523)

# A 旧内山下小学校 有料 (校庭・プール無料)

## 展示作品



A20 アジフ・ミアン  
《無と妖怪》



A21 島袋道浩  
《白鳥、海へゆく》



A22 ダニエル・ボイド  
《無題(34° 39'53.9"N 133° 55'54.8"E)》



A22 ダニエル・ボイド  
《無題(34° 39'53.9"N 133° 55'54.8"E)》



A22 ダニエル・ボイド  
《無題(DOWM)》《無題(GB5)》  
《無題(SDAW)》《無題(FJ)》

島袋道浩  
1969年、神戸市出身。現在は那覇市を拠点に世界各地で活動。  
1990年代初頭より国内外の多くの場所を旅し、その場所やそこに生きる人々の生活や文化、新しいコミュニケーションのあり方に関する映像、彫刻、パフォーマンス、インスタレーション作品などを制作。その作品は時に生き物と人間との関係にも及ぶ。詩情とユーモアに溢れながらもメタフォルカルに人々を魅惑するような作風は世界的な評価を得ている。主要な国際展にも数多く参加しており、その中には第57回ヴェネツィア・ビエンナーレ(2017年)、第14回リヨン・ビエンナーレ(2017年)、第12回ハバナ・ビエンナーレ(2015年)、第9回台北ビエンナーレ(2014)、第11回シャルジャ・ビエンナーレ(2013年)、第27回サンパウロ・ビエンナーレ(2006年)、リパブル・ビエンナーレ(2006年)、第11回シドニー・ビエンナーレ(1998年)などがある。主な近年の個展としては、ウィルス現代アートセンター、ブリュッセル、ベルギー(2022年)、モナコ国立新美術館(2021年)、クレダック現代アートセンター、イブリー、フランス(2018年)、クンスト・ハーレ・ベルン、スイス(2014年)、アイコン・ギャラリー、バーミンガム、U.K.(2013年)などが挙げられる。

アビチャッポン・ウィーラセタクン  
1970年バンコク生まれ、タイの東北部コーンケンで育つ。現在チェンマイに主な拠点を置く映画監督、アーティスト。2010年にはカンヌ映画祭の最高賞のパルム・ドールを『ブンミおじさんの森』にて受賞、2021年に公開された最新作の『MEMORIA メモリア』は同審査員賞を受賞している。アートの分野でも高い評価を得ており、2011年の横浜トリエンナーレをはじめ、2012年のドクメンタ13、2013年にシャルジャ・ビエンナーレ、2019年のベニスビエンナーレなど多数の国際展に参加。2015年には映像をつかった初の劇場作品「Fever Room」を発表し各地で上演、2022年あいちトリエンナーレでは初のVR作品を発表し、活動の幅をさらに広げている。



A23 アビチャッポン・ウィーラセタクン  
《静寂という言葉は静寂ではない》

# A 旧内山下小学校 有料 (校庭・プール無料)

## 展示作品



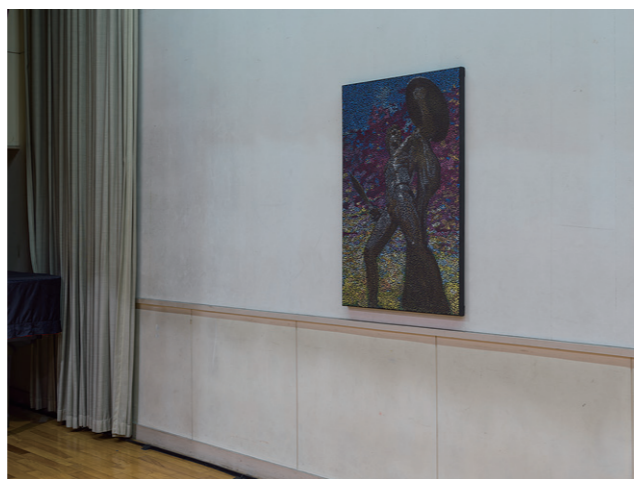
A24 バルバラ・サンチェス・カナ  
《悪臭の詩》



A25 笹本晃  
《天気予報 #1》《天気予報 #2》《未来形の過去、テーブル 3》



A26 マイリン・レイ  
《良い夢の鬼》



A27 ダニエル・ボイド  
《無題 (ACTTIO)》

### バルバラ・サンチェス・カナ

1987年、メキシコ、メリダ生まれ。現在は本拠地を拠点に活動。  
独自に提唱する「macho sentimental(マッチョ・センチメンタル)」の考えに基づき、ジェンダーの枠を超えた作品を通じて、メキシコに対する伝統的なイメージ、およびその女性性や男性性との関係に抵抗する。ファッションデザイン、絵画、パフォーマンス、インスタレーションなどの手法を用いて、不安と恐れ、そして快楽と支配に対する問いを一貫して表現している。主な個展・パフォーマンスに、2022年「sanchezkaneismojkurimanzutto(メキシコシティ)」、2021年「Pret-a-Patria」(「Siembra」展示企画の一環として)kurimanzutto(メキシコシティ)、2020年「Latino Couture」エコ現代美術館(メキシコシティ)、2019年「Macho Sentimental vol. II」パレ・ド・トーキョー(パリ)、2019年「Las Puertas al Sentimentalismo」Licenciado Gallery(メキシコシティ)、2018年「Macho Sentimental vol. I」Grand Tour Studio(ミラノ)、2017年「Vast Graveyard of the Missing」Institute of Contemporary Art, Los Angeles(ロサンゼルス)など。近年の主なグループ展に、2021年「De por Vida」Company Gallery(ニューヨーク)、2021年「en llamas」LLANO(メキシコシティ)、2020年「Otrxs Mundxs」ルフィノー・タマヨ博物館(メキシコシティ)、2020年「Senora」Galerie Meyer Kainer(オーストリア)、2019年「Prince.sse.s des villes」パレ・ド・トーキョー(パリ)がある。

### 笹本晃

1980年、神奈川県生まれ。現在はニューヨークを拠点に活動。  
笹本はパフォーマンス、彫刻、ダンス、映像作品などを手がけ、ニューヨークをはじめ世界各国のパフォーミングアーツやビジュアルアートの美術館・ギャラリー・施設などで作品を発表している。ミュージシャン、振付師、科学者、学者など幅広い分野の人間とのコラボレーションも多数展開し、自他の作品のなかでダンサー、彫刻家、ディレクターとして様々な役割を演じている。笹本のパフォーマンス/インスタレーション作品は、何気ない、ありとあらゆる小さくを中心に展開している。彫刻的に編集した物(ファウンド・オブジェ)を緻密に構成したインスタレーション、また即興パフォーマンスで展開する大胆な身振りやフィードバックを生み、音や物、身体動作と呼応する。そこで組み立てられた物語は一見すると個人的なものに見えるが、奇妙なまでにさまざまなアクセスや関係性、考察への可能性が開かれている。主な個展に、2017年「Yield Point」ザ・キッチン(ニューヨーク)、2016年「Delicate Cycle」スカルプチャーターセンター(ニューヨーク)がある。主なグループ展に、2022年の国際芸術祭「あいち2022」(愛知)、2022年の第59回ヴェネツィア・ビエンナーレ、2021年ロッテルダム芸術ホール(オランダ・ロッテルダム)、2021年UCCA Edge(上海)、2018年大館(香港)、2017年レイキャピク美術館(アイスランド・レイキャピク)、2017年の第9回恵比寿映像祭(東京・恵比寿)、2016年の第3回コチムジリス・ビエンナーレ(インド・コチ、2016年)、2016年の第11回上海ビエンナーレ、2015年の堂島リバー・ビエンナーレ2015(大阪)、2015年のParasophia:京都国際現代芸術祭2015(京都)、2014年のHigh Line Art(ニューヨーク)、2013年森美術館(東京・六本木)、2012年の光州ビエンナーレ(韓国・光州)、2010年MoMA PS1(ニューヨーク)、2010年のホイットニー・ビエンナーレ2010(ニューヨーク)、2008年の「横浜トリエンナーレ2008(神奈川)」など。

### マイリン・レイ

カリフォルニア州サンノゼ育ち。2000年代初め、10代の頃よりダンスを始める。  
サンノゼスタイルのポップダンスを広めたチカーノのグループによって1981年に設立されたPlayboyz Inc.に所属。ベトナム系、メキシコ系、アフリカ系、サモア系、フィリピン系アメリカ人から成るストリートダンサーメンバーと共に活動。世界的なダンススクールを代表する初の女性ダンサーとして、ワークショップ講師を務める他、ダンスバトルに出場者、また審査員として参加するなど、国際的に活躍している。長年にわたる様々なストリートダンス・コミュニティでの経験は、様々な分野にまたがって活躍するストーリーテラーとしての彼女の活動に大きな影響を与えている。自然に湧き出るダンスの動きを観客から引き出す没入型インスタレーションや、即興ダンスを自己エスノグラフィックな解釈から探る映像など、リーの作品は、ダンスを単なる表現媒体や形式としてではなく、知ることや思い返すこと、相互に関係し繋がること、そして解放と回復のための手法として提示している。2021年、オークランドで結成したターフダンス・グループ「Mud Water Theatre」の作品がGerbode財団の振付部門で特別賞を受賞。また、同グループから名前をとったダンス映像作品「MUD WATER」の脚本・監督を務め、本作は第65回サンフランシスコ国際映画祭(SFFILM)で初上映された。その他の代表作に、2022年「ANIMA」(サンフランシスコ)、2021年「THE ORIGIN STORY OF NO NAME」(サンフランシスコ)、2020年「TRONG NUOC」(アメリカ・テキサス)、2017年「THE REVERSE TURING TEST」(タイ・チェンマイ)などがある。



# 岡山県天神山文化プラザ Tenjinyama Cultural Plaza of Okayama Prefecture



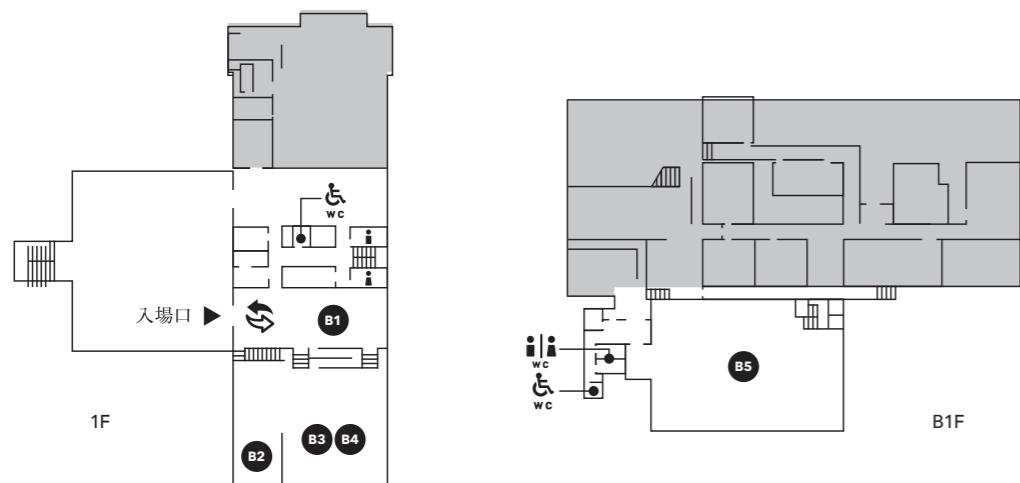
図書館を核とした「岡山県総合文化センター」として、1962年6月に開館した。建物の設計は、モダニズム建築の巨匠・前川國男氏によるもので、屋上庭園、ピロティ、吹き抜けレリーフなど、当時のモダンなデザイン手法が随所に見られる。図書館部門が移転した後、2005年に、岡山県民の身近な芸術文化活動と文化情報発信の拠点施設としてリニューアルオープンした。

## B 岡山県天神山文化プラザ 有料

会場 第1展示室(1階)、第2展示室(地下1階)  
鑑賞券販売、前売引換、Wi-Fiスポット



作品 32作品



**B1** デヴィッド・メダラ  
David Medalla  
《雲の峡谷》  
Cloud Canyons

**B2** ジャコルビー・サッターホワイト  
Jacolby Satterwhite  
《欲望の具現化7 - 夜明け》  
Reifying Desire 7 - Dawn

**B3** アブラハム・クルズヴィエイガス  
Abraham Cruzvillegas  
《無題の書道コンテスト》  
Untitled calligraphy contest

**B4** アブラハム・クルズヴィエイガス  
Abraham Cruzvillegas  
《3つの三角形を3重にする》  
Three times three triangles together

**B5** デヴィッド・メダラ  
David Medalla  
《シャルトル大聖堂 - アルチュール・ランボーへのオマージュ》※  
《クマ・ラバマシンための習作》※  
Chartres Cathedral - Homage to Arthur Rimbaud  
Cuma - Studies for Lava Machine  
Study for a Monumental Peelable Sculpture  
※リクリット・ティラヴァーニヤによるキュレーションインデックス展の一部として第1展示室に展示

### 展示作品



**B1** デヴィッド・メダラ  
《雲の峡谷》

デヴィッド・メダラ

1942年、マニラ生まれ。フィリピン出身の国際的アーティスト。作品は彫刻やキネティック・アート、絵画、インスタレーション、パフォーマンスアートまで多岐にわたる。生前はマニラのほか、ロンドン、ニューヨーク、パリにも滞在し、芸術活動を行う。アメリカの詩人、マーク・ヴァン・ドレンの推薦により、12歳でニューヨークのコロンビア大学への入学が認められ、モーゼス・ハダスの下で古代ギリシア演劇を学んだほか、現代演劇をエリック・セントレー、現代文学をライオネル・トリリング、現代哲学をジョン・ランドールに師事し、またレオニー・アダムズによる詩のワークショップにも参加。19世紀および20世紀のヨーロッパの芸術や文学に強く影響を受け、戦後ロンドンの前衛芸術界でも活躍。ロンドンのSignals Gallery(1962年~64年)での短期ながらも先駆的な取り組みや、実験的パフォーマンス集団「The Exploding Galaxy」(1967年~68年)で中心的役割を果たし、政治的活動を展開する「Artists for Democracy」では1974年から1977年にかけて会長を務めた。また芸術家のアダム・ナンカービスと共に1994年に「モンドリアン・ファンクラブ」を、さらに2000年には「ロンドン・ビエンナーレ」を創設し、コラボレーションや交流を主軸とした継続的な活動を展開した。作品は、ハラルド・ゼーマンのキュレーションによる「Weiss auf Weiss」(1966年)、「Live in Your Head: When Attitudes Become Form」(邦題:態度が形になるとき) (1969年)、ドクメンタ5(1972年)などで展示されている。加えて、シドニー・ビエンナーレ、ロンドン・ビエンナーレ、ヨハネスブルグ・ビエンナーレ、第8回アジア・パシフィック・トリエンナーレなどの国際芸術祭をはじめ、テート・リパブル(リヴァプール)、ポンピドゥー・センター(パリ)、ニュー・ミュージアム(ニューヨーク)、インスティテュート・オブ・コンテンポラリー・アート(ICA)(ロンドン)、セセッション館(ウィーン)、DAADギャラリー(ベルリン)を含む著名な美術館や施設での国際展示にも出展するなど、長年にわたり多数の作品を発表し続けた。2017年には、クリスティーヌ・マセルがキュレーションを務めた第57回ヴェネツィア・ビエンナーレ企画展「Viva Arte Viva」にて、自身のパフォーマンス作品「A Stitch in Time」の再演および、ナンカービスとの共同作品である「モンドリアン・ファンクラブ」を披露。2020年12月、マニラにて死去。作品のアーカイブはベルリンのanother vacant space.に収蔵されている。



**B5** デヴィッド・メダラ  
《シャルトル大聖堂 - アルチュール・ランボーへのオマージュ》  
《クマ・ラバマシンための習作》  
《剥離可能な記念碑のための習作》

## B 岡山県天神山文化プラザ 有料

### 展示作品



**B2** ジャコルビー・サッターホワイト  
《欲望の具現化7 - 夜明け》



**B3** アブラハム・クルズヴィエイガス  
《無題の書道コンテスト》



**B3** アブラハム・クルズヴィエイガス  
《無題の書道コンテスト》



**B4** アブラハム・クルズヴィエイガス  
《3つの三角形を3重にする》

ジャコルビー・サッターホワイト

1986年、サウスカロライナ州コロンビア生まれ。サッターホワイトは労働、消費、肉欲、想像などのテーマを、没入型インスタレーション、バーチャルリアリティ、デジタルメディアを通して提起するコンセプチュアルな創作活動で知られる。様々なソフトウェアを駆使して複雑かつ緻密なアニメーション/実写映像を制作し、現実リアルと空想が絡み合った世界観を表現。アーティストと彼の友人がアバターとして登場し、イラスト、パフォーマンス、絵画、彫刻、写真、テキストなど作家が手がける多様な表現を融合させている。クワイア理論、モダニズム、ビデオゲーム言語などを幅広く参照し、個人的・政治的な観点から従来の西洋美術の概念に立ち向かう。また亡き母、パトリシア・サッターホワイトからも強い影響を受けており、パトリシアが想像した日用品のスケッチ、そして軽妙な歌声をインスピレーションに、記憶と伝承という複雑な構造を編みこんでいる。メリーランド・インスティテュート・カレッジ・オブ・アート(ボルチモア)で美術学士号を、ペンシルベニア大学(フィラデルフィア)で美術修士号を取得。多数の国際的な展示や芸術祭で発表しており、近年の主な展示に2022年FRONT International(アメリカ・クリーブランド)、2021年ミラー・インスティテュート・フォー・コンテンポラリー・アート(ペンシルベニア)、2021年ハウス・デア・クンスト(ミュンヘン)、2021年光州ビエンナーレ(韓国・光州)、2021年ウエクスナー・芸術センター(オハイオ)、2019年フアブリック・ワークショップ&ミュージアム(フィラデルフィア)、2019年バイオニア・ワークス(ニューヨーク)、2019年ホワイトチャペル・ギャラリー(ロンドン)、2019年ニューヨーク近代美術館(ニューヨーク)、2019年ミネアポリス美術館(ミネアポリス)、2018年シカゴ現代美術館(シカゴ)、2018年フンダシオン・ヴィトン(パリ)、2017年ニュー・ミュージアム(ニューヨーク)、2017年パブリック・アート・ファンド(ニューヨーク)、2017年サンフランシスコ近代美術館(サンフランシスコ)、2017年インスティテュート・オブ・コンテンポラリー・アート(フィラデルフィア)など。2016年にフランシー・ビショップ・グッド&デヴィッド・ホルヴィッツ・米国アーティスト・フェローシップを受賞。作品はヘルシンキ現代美術館キアズマ(ヘルシンキ)、ニューヨーク近代美術館、ハーレム・スタジオ美術館(ニューヨーク)、ホイットニー美術館(ニューヨーク)などに所蔵されている。2019年にソランジュ・ノウルズのヴィジュアルアルバム「When I Get Home」を共作。

アブラハム・クルズヴィエイガス

1968年、メキシコシティ生まれ。銀河系道教太極拳協会(インターギャラクティック・タオイズム・タイチーソサエティ)の現役メンバー。クルズヴィエイガスの作品は以下を含む様々な芸術文化施設に出展されている。2022年バス美術館(アメリカ・マイアミビーチ)、2019年ザ・コンテンポラリー・オースティン(テキサス)、2019年アスペン美術館(アメリカ・アスペン)、2019年ホルン・ビエンナーレ(ハワイ)、2018年MUCACampus(メキシコシティ)、2018年チューリッヒ美術館(チューリッヒ)、2018年シドニー・ビエンナーレ(シドニー)、2017年銀座メゾン・エルメスフォーラム(東京)、2016年ニカラグア・ビエンナーレ(ニカラグア)、2015年テート・モダン(ロンドン)、2015年第12回シャルジャ・ビエンナーレ(UAE)、2014年ジュメックス美術館(メキシコシティ)、2014年アン・パロ美術館(メキシコ・プエブラ)、2014年ハウス・デア・クンスト(ミュンヘン)、2013年ウオーカー・アート・センター(アメリカ・ミネアポリス)、2012年ドクメンタ13(ドイツ・カッセル)、2011年第12回イスタンブール・ビエンナーレ(イスタンブール)、2010年ソウル・メディアシティ・ビエンナーレ2010(ソウル)、2009年REDCAT(ロサンゼルス)、2009年第10回ハバナ・ビエンナーレ(キューバ)、2008年CCA現代アートセンター(グラスゴー)、2003年第50回ヴェネツィア・ビエンナーレ(イタリア)。2016年、ハーバード大学出版局より著作集「The Logic of Disorder」出版。

## B 岡山県天神山文化プラザ 有料

**B5** リクリット・ティラヴァーニヤによるキュレーションインデックス展  
(第2展示室)

ラゼル・アハメド  
Rasel Ahmed  
《誰がタニヤを殺したか》  
Who Killed Taniya

アート・レーパーとジャライ族のアーティストたち  
Art Labor in collaboration with Jrai artists  
《7段階のメタモルフォーゼ》  
Seven-staged Metamorphosis

王兵(ワン・ビン)  
Wang Bing  
《原油》  
《15時間》  
Crude Oil  
15 Hours

ダニエル・ボイド  
Daniel Boyd  
《ヤマニ》  
Yamani

リジア・クラーク  
Lygia Clark  
《生体建築Ⅰ》  
《生体建築Ⅱ》  
《生体建築Ⅲ》  
《集約の頭部》  
《カニバリズム》  
《拘束衣》  
《自己の構築》  
《知覚の仮面》  
《私とあなた》  
《ゴムの網》  
《ゴムの網》

Arquitetura biológica I, 1969 [Biological Architecture I]  
Arquitetura biológica II, 1969 [Biological Architecture II]  
Arquitetura biológica III, 1969 [Biological Architecture III]  
Cabeça colectiva, 1974 (Lygia to left of image) [CollectiveHead]  
Canibalismo, 1973 [Cannibalism]  
Camisa de força, 1969 [Straitjacket]  
Estruturação do self, 1976 [Structuring of Self]  
Máscaras sensoriais, 1967 [Sensorial Masks]  
O eu o tu, 1976 [The I and the you]  
Rede de elásticos, 1973 [Elastic Net]  
Rede de elásticos, 1973 [Elastic Net]

アブラハム・クルズヴィエイガス  
Abraham Cruzvillegas  
《Kami No Michi》  
Kami No Michi

円空  
Enku  
《菩薩像》  
Bosatsu (Bodhisattva)

池田亮司  
Ryoji Ikeda  
《data.scan》  
data.scan

片山真理  
Mari Katayama  
《in the water》  
in the water

マイリン・レイ  
My-Linh Le  
《泥水》  
Mud Water

デヴィッド・メダラ  
David Medalla  
《モホールの花》  
《山》  
《モホール彫刻》  
《シャルトル大聖堂 - アルチュール・ランボーへのオマージュ》※  
《クマ・ラバミンのための習作》※  
《剥離可能な記念碑のための習作》※  
Mehole Flower  
The Mountain  
Mehole Sculpture  
Chartres Cathedral - Homage to Arthur Rimbaud  
Cuma - Studies for Lava Machine  
Study for a Monumental Peelable Sculpture  
※第1展示室に展示

アジフ・ミアン  
Asif Mian  
《無煙の火》  
Smokeless Fire.

プレシャス・オコヨモン  
Precious Okoyomon  
《動物界の墓》  
The Grave of Animality

フリーダ・オルパボ  
Frida Orupabo  
《振り向き》  
Turning

ヴァンディー・ラッタナ  
Vandy Rattana  
《モノローグ》  
《…遠い、向こうの、海、》  
《葬式》  
MONOLOGUE  
...far away, over there, the ocean  
Funeral

バルバラ・サンチェス・カネ  
Bárbara Sánchez-Kane  
《私のドレスシャツの顔布を着直す》  
Relining the shroud of my dress shirt

笹本晃  
Aki Sasamoto  
《天気バー、テスト》  
Wether Bar, Test

ジャコルビー・サッターホワイト  
Jacolby Satterwhite  
《夜明け》  
Dawn

島袋道浩  
Shimabuku  
《無題(チエンマイで、私たちが一緒に見た象)》  
Untitled (The Elephant we met together in Chiang May)

曾根裕  
Yutaka Sone  
《リクリット・ティラヴァーニヤ 17の微笑み》  
17 times Rirkrit Tiravanija Smile

アピチャップン・ウィーラセタクン  
Apichatpong Weerasethakul  
《静寂という言葉は静寂ではない》  
The Word Silence is Not Silence

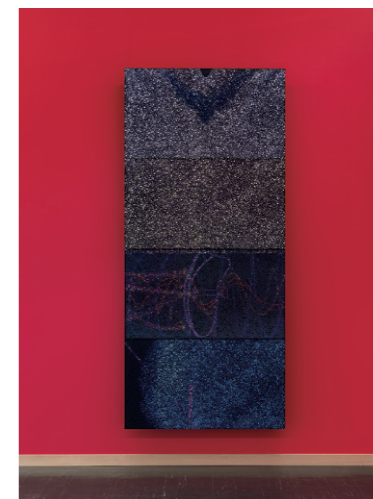
梁慧圭(ヤン・ヘグユ)  
Haegue Yang  
《ソニックウェア-金色三角錐の手》  
Sonicwear - Gold Conical Hands

## B 岡山県天神山文化プラザ 有料

### 展示作品



**B5** ラゼル・アハメド  
《誰がタニヤを殺したか》



**B5** ダニエル・ボイド  
《ヤマニ》



**B5** アート・レーパーとジャライ族のアーティストたち  
《7段階のメタモルフォーゼ》



**B5** 王兵(ワン・ビン)  
《15時間》



**B5** 王兵(ワン・ビン)  
《原油》

ラゼル・アハメド  
1990年、バングラデシュ、ダッカ生まれ。現在はオハイオ州コロンバスを拠点に活動。伝統的な映画表現や技法を使い、記録映像と空想的表現を融合させた作品を制作。参加型ドキュメンタリーやアーカイブリサーチのほか、共同制作による再現映像を駆使した役者の演技や動きの設定を特徴とする。バングラデシュ初となるLGBTQの雑誌の編集者および共同創設者としての経歴を持ち、2016年に同誌の発行人がバングラデシュで襲撃されたのを受け、国外へ避難。彼の実験的な映像作品は、彼自身の国外移住や市民権、国境、孤独との対話関係を追求する一つの手法となっている。作品はこれまでに、Marli Matsumoto Arte Contemporânea (サンパウロ)、オハイオ州立大学のウェクスナー芸術センター(オハイオ)、レンフェスト・センター(ニューヨーク)、ホプキンス・ホール・ギャラリー(オハイオ)、国立民主研究所(アメリカ)、ヒューマン・ライツ・キャンペーン財団(アメリカ)など、多数の芸術祭やギャラリー、コミュニティ/団体施設などで展示されている。主な受賞・レジデンス・助成歴に、キャットキル・アーティスト・レジデンス、UnionDocsサマラボ、Avijit Roy Courage Award、Atlas Corpsフェローシップなど多数。現在、地域に根ざしたクアの歴史を記録するアーカイブ活動を主宰するほか、オハイオ州立大学舞台芸術・映画・メディアアーツ科にて助教を務める。

王兵(ワン・ビン)

1967年、中国陝西省西安生まれ。現在はフランスと中国を拠点に活動。1992年、瀋陽の魯迅芸術大学写真専攻を卒業。制作のため、鉄西工場で働く労働者を長期にわたって観察し撮影を続けた。1995年、北京電影学院に入学。テレビ局勤務の経験を経て、1998年から映画監督としての活動を開始。2002年に撮影した初のドキュメンタリー映画「鉄西区」は数々の賞や助成金を獲得した。ワン・ビンの映像作品は、近年の中国の経済変革から排除された人々を無二の美しさや妥協のない厳肅さをもって鮮やかに描き出す。登場人物の人生の瞬間、そのはかなさを寓話に転換しようとする試みによって、美しくまた悲哀に満ちた、心を揺さぶる映画を作り出している。歴史の深い考察と、止めようのない現代中国の発展がもたらす矛盾と苦悩を打ち出し、観察とリアリティを極限まで追及し、映像に昇華している。2009年、パリのギャラリー・ジャンタル・カルセルで初の個展を開催し、ドキュメンタリー映画「風鳴」と「名前のない男」を上映。以来、「三姉妹-雲南の子」(2012年)、「タア」(2016年)、「石炭、金」(2009年)をはじめ、2017年にアテネとカッセルのドクメンタ14で上映された「ファンさん」(2017年)、「15時間」(2017年)、「Beauty lives in Freedom」(2018年)など多くのドキュメンタリーを制作している。2018年から2019年にかけて、ル・フレンア国立現代芸術スタジオ(フランス)の客員アーティスト/教授を務める。2017年、「ファンさん」でロカルノ国際映画祭(スイス)最高賞の金豹賞を受賞。同年、これまでの作品実績が評され、EYE Art & Film 賞を受賞(アムステルダム)。主な個展に、2021年LE BAL (パリ)、2018年~2019年クストハレ・チューリッヒ(チューリッヒ)、2016年カリフォルニア美術大学ワティス・インスティテュート(サンフランシスコ)、2014年ボンビドゥー・センター(パリ)など。2018年には、マドリドのソフィア王妃芸術センターとFilmoteca Españolaで大規模な回顧展が開催された。グループ展に、2021年マルタ・ヘルフォルト(ドイツ・ヘルフォルト)、2020年織物博物館(ワシントンD.C.)、2019年ポドドン大学美術館(アメリカ・メイン)、2017年Bi-City Biennale of Urbanism/Architecture (深圳)、2017年Brunswick Centre Culturel de Strombeek(ベルギー・ブリュッセル)、2015年全州国際映画祭(韓国・全州)、2014年上海ビエンナーレ(上海)、2010年Filmmaker Festival(ミラノ)などがある。これまでに、ソフィア王妃芸術センター(マドリド)、M+ (香港)、ボンビドゥー・センター(パリ)、アテネ国立現代美術館EMST(アテネ)、国立造形センターCNAP(パリ)に作品が收藏されている。

アートレーパーとジャライ族のアーティストたち  
ベトナム・ホーチミン市を拠点とするタイ・グエン・ファン(Thao Nguyen Phan)、チュオン・コン・トゥン(Truong Cong Tung)、アルレット・クイン・アイン・チャン(ArletteQuynh-Anh Tran)の三人によるアーティストグループ。様々な公共的文脈や場所にアプローチしながら、ビジュアルアーツや社会/自然科学の中間地点で活動する。単体としての作品ではなく、数年をかけて一つのインスタレーションを種にアイデアを育んでいくスタイルを展開。種が成長することで、発想が広がり、やがてプロジェクトや作品という《根》を張っていく。これまで手がけたプロジェクトに「Unconditional Belief」(2012年~2015年)、「Jrai Dew」(2016年~)、「JUA」(2019年~)など。主な展示に、2021年Paradise Kortrijk,Triennial for Contemporary Art(ベルギー・コルトレイク)、2018年第57回カーネギー・インターナショナル(アメリカ・ピッツバーグ)、2018年バンコク・アート・ビエンナーレ(タイ)、2018年ダッカ・アート・サミット(バングラデシュ)、2018年バラ・サイト(香港)、2018年ワルシャワ近代美術(ワルシャワ)、2017年「Cosmopolis #1: Collective Intelligence」ボンビドゥー・センター(パリ)、2017年アジア・アート・ビエンナーレ(台湾)、2017年「Salt of the Jungle」KF Gallery(韓国)、2016年~2017年「Jrai Dew Sculpture Garden」(ベトナム・中部高原地帯)、2015年「The Adventure of Color Wheel」ホーチミン市眼科病院小児科(ホーチミン)、2014年「UnconditionalBelief」Sàn Art(ホーチミン)など、ベトナム・海外で多数紹介されている。

## B 岡山県天神山文化プラザ 有料

### 展示作品

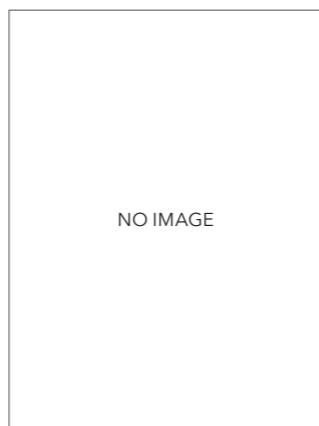


**B5** リジア・クラーク  
《生体建築Ⅰ》《生体建築Ⅱ》《生体建築Ⅲ》《集会的頭部》《カニバリズム》《拘束衣》  
《自己の構築》《知覚の仮面》《私とあなた》《ゴムの網》《ゴムの網》

リジア・クラーク  
1920年、ブラジル、ベロオリゾンテに生まれる。1988年、ブラジル、リオデジャネイロにて没。  
30年以上にわたり、芸術の役割と機能を根本的に問い直す作品を手がける。主に絵画、彫刻、パフォーマンス、後に精神分析理論を展開しながら、アーティスト、作品、鑑賞者に対する固定概念の解体を目指した。物理的な交流と感覚的な体験を促す身体的・有機的な形態を通じて、作品と鑑賞者の関係性に疑問を呈する先駆的な活動を続けた。開催された個展に、2020年ビルバオ・グッゲンハイム美術館（スペイン）、2020年テート・モダン（ロンドン/エリオ・オイテシカと合同）、2016年アリソン・ジャック・ギャラリー（ロンドン）、2014年ニューヨーク近代美術館（ニューヨーク）、2014年ヘンリー・ムーア・インスティテュート（イギリス・リーズ）、2012年イタウ・カルチュラル・センター（サンパウロ）がある。近年のグループ展では、2021年ボンビドゥー・センター（パリ）、2019年サンパウロ美術館（ブラジル）2019年ニューヨーク近代美術館、2019年カールスルーエ・アート・アンド・メディア・センター（ドイツ・カールスルーエ）、2019年世界文化の家（ベルリン）、2018年ガレージ現代美術館（モスクワ）、2018年ブエノスアイレス現代美術館（アルゼンチン）、2018年ブルックリン美術館（ニューヨーク）、2017年ワルシャワの近代美術館（ポーランド）などに出品された。ボンビドゥー・センター国立近代美術館（パリ）、ソフィア王妃芸術センター（マドリッド）、ヒューストン美術館（テキサス）、ニューヨーク近代美術館、リオデジャネイロ近代美術館（ブラジル）、サンパウロ近代美術館（ブラジル）、サンフランシスコ近代美術館（カリフォルニア）、テート・モダン（ロンドン）に作品が所蔵されている。

円空  
1632年~1695年。  
江戸時代前期の僧侶、仏師。1632年（寛永9）に美濃国（岐阜県）で生まれる。幼少期に出家したとされ、その後も白山などで山岳修行を重ねた。30歳前半頃に美濃国を離れ、北海道、東北、関東、畿内などを遊化した。また、1663年（寛文3）までには造像を始め、生涯において10万躯以上を制作したといわれている。1695年（元禄8）に美濃国に戻り、同年7月15日64歳で死去した。円空の彫刻は、一木を粗削りし、造形を大胆に簡略化して彫りだす表現で知られる。彩色や装飾を施さず、木の木質を生かしたその素朴な描写は、庶民的とも評される。初期には、表面を滑らかに整え、伝統的な表現を踏襲した作品も見られるが、次第に贅飾を残した、力強く抽象的な作風へと変化していった。作風の確立後は、穏やかな表情の微笑仏も多く造像された。円空の大量の造像は、僧侶として、民衆への教化とともに自身の修行の一環でもあったといえよう。

【執筆】  
横山定（岡山県立博物館副館長）  
岡崎有紀（岡山県立博物館学芸員）



**B5** 円空  
《菩薩像》



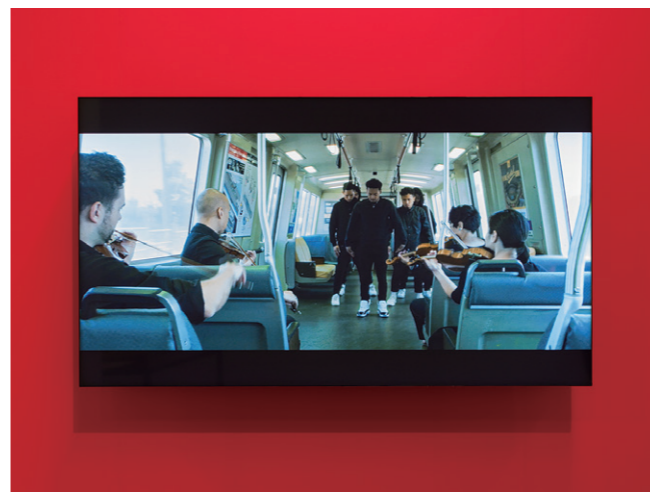
**B5** アブラハム・クルズヴィエイガス  
《Kami No Michi》

## B 岡山県天神山文化プラザ 有料

### 展示作品



**B5** 池田亮司  
《data.scan》



**B5** マイリン・レイ  
《泥水》



**B5** デヴィッド・メダラ  
《モホールの花》《モホールの彫刻》《山》



**B5** 片山真理  
《in the water》

池田亮司  
1966年、岐阜県生まれ。現在はパリと京都を拠点に活動。電子音楽の作曲家・アーティストとして国際的に活動し、実験的なアート作品も手掛ける。音、イメージ、物質、物理現象、数学的概念を緻密に編成した没入型のライブパフォーマンスやインスタレーション作品を発表している。2008年以降、ボンビドゥー・センター（パリ）、キャリッジワークス（シドニー）、MONA（オーストラリア・タスマニア島ホバート）、パーク・アベニュー・アーモリー（ニューヨーク）、東京都現代美術館（東京）、コロンビア国立大学美術館（コロンビア・ボゴタ）、カールスルーエ・アート・アンドメディア・センター（ドイツ・カールスルーエ）、アイ・フィルムミュージアム（アムステルダム）、台北市立美術館（台北）、180The Strand（ロンドン）、ファイ・センター（モントリオール）など、世界的に名高い会場で開催を行っている。2022年に弘前れんが倉庫美術館（青森）にて、国内では2009年以降となる大規模な個展を開催。ラルフ・ゴッホがキュレーションを手がけた2019年の第58回ヴェネツィア・ビエンナーレ「May You Live in Interesting Times」では、オーデマ・ピゲコンテンポラリーから委託された長期的なオーディオビジュアルプロジェクト「data-verse」が公開された。またこれまでに、パービカン・センター（ロンドン）、ボンビドゥー・センター（パリ）、フェスティバル・ドートンヌ（パリ）、ロサンゼルス・フルハーモニー（ロサンゼルス）、コンセルト・ハボウ（ベルギー・フルージュ）、メトロポリタン美術館（ニューヨーク）、Kyoto Experiment 京都国際舞台芸術祭（京都）、ストラスブル音楽祭（フランス・ストラスブル）、ディアキレフ・フェスティバル（ロシア・バルミ）などで、音響およびオーディオビジュアルコンサートを行なっている。2014年、アルス・エレクトロニカのCollide@CERN Award受賞。2020年、第70回芸術選奨文部科学大臣賞（メディア芸術部門）を受賞。

## B 岡山県天神山文化プラザ 有料

### 展示作品



B5 アジフ・ミアン  
《無煙の火》



B5 フリーダ・オルバボ  
《振り向き》



B5 プレシャス・オコヨモン  
《動物界の墓》

フリーダ・オルバボ  
1986年、ノルウェー、サルプスボルグ生まれ。現在はオスロを拠点に活動。  
オルバボの作品は、人種・ジェンダー・性・暴力・まなざし(Gaze)・ポストコロニアルズム・アイデンティティといった題材を、断片的で多種多様な性質のメディアを通して探求している。InstagramやYouTube、Facebook、Tumblrといった画像共有プラットフォームを情報源およびツールに、人種やジェンダーを定義づける画一的かつランダムな画像を大量に用いて、ユーザー生成コンテンツやその不安定な流動的性質が、既存の規範の強化と分断をもたらすという考えに基づき制作を行う。これまでに、2022年Vintartour写真美術館(スイス)、2021年アフロ・ブラジル博物館(サンパウロ)、2021年Kunsthall Trondheim(トロンハイム)、2020年ハウス・マルセイユ写真美術館(アムステルダム)、2019年Portikus(フランクフルト)、2019年Kunsternes Husなどで個展を開催。また、2018年の第58回ヴェネツィア・ビエンナーレおよび2021年の第34回サンパウロ・ビエンナーレに参加したほか、アメリカのビデオアーティスト・映画監督のアーサー・ジャファによる「A Series of Utterly Improbable, Yet Extraordinary Renditions」展でミン・ミス、Missylanyusと共に作品を発表。同展はストックホルム近代美術館、ブラハのルドルフィヌムギャラリー(いずれも2019年)、2018年Julia Stoschek Collection(ベルリン)、2017年サーペンタイン・スクララー・ギャラリー(ロンドン)で開催された。

## B 岡山県天神山文化プラザ 有料

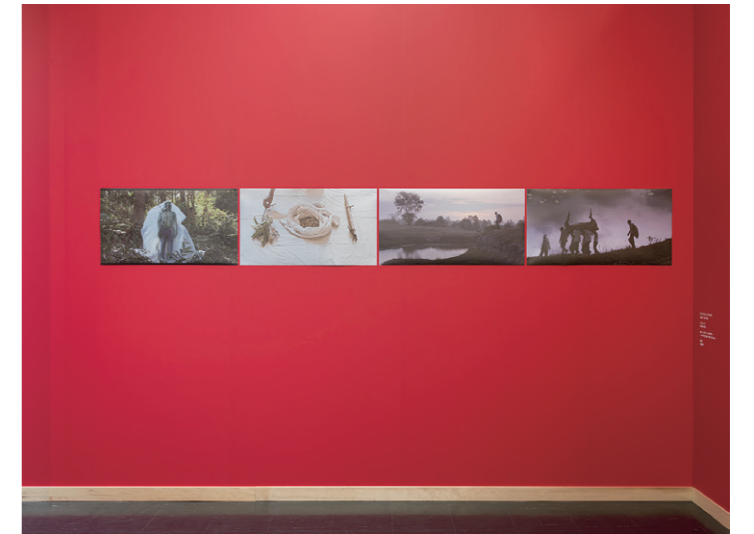
### 展示作品



B5 バルバラ・サンチェス・カネ  
《私のドレスシャツの顔布を着直す》



B5 笹本晃  
《天気バー、テスト》



B5 ヴァンディー・ラッタナ  
《モノログ》  
《…遠い、向こうの、海》  
《葬式》

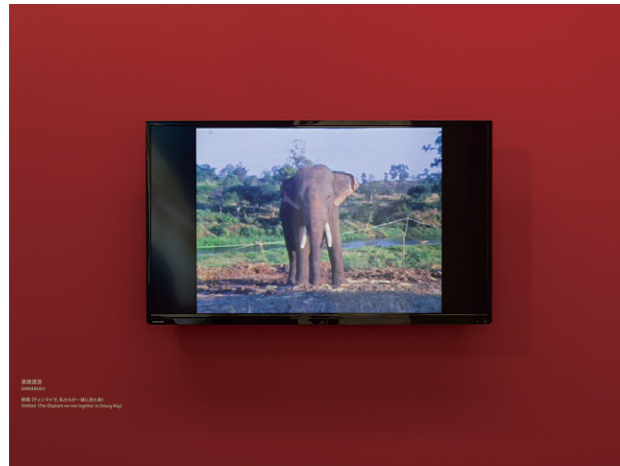


B5 ジャコルビー・サッターホワイト  
《夜明け》



## B 岡山県天神山文化プラザ 有料

### 展示作品



**B5** 鳥袋道浩  
《無題(チェーンマイで、私たちが一緒に見た象)》



**B5** 曾根裕  
《リクリット・ティラヴァーニャ 17の微笑み》

#### 梁慧圭(ヤン・ヘギユ)

1971年、ソウル生まれ。現在はベルリンとソウルを拠点に活動。  
ヤン・ヘギユの表現はコラージュ、キネティック・スカルプチャー、空間インスタレーションなど幅広いメディアにおよび、作家独自の視覚表現を通して異なる歴史と伝統を繋ぐ。ブラインドや鈴、韓紙(ルビ:ハンジ) [楮[こうぞ]の樹皮から作られた韓国の伝統手漉き紙)、人工葉やレンガなど、様々な工法や素材とそれらが有する文化的な意味合いを扱っている。多感覚に訴える没入型インスタレーションは、視覚を越えた先の知覚を触発し、労働、移民、難民の問題に美学的見地から切り込んでいる。一貫して不定形かつ個人化されたレファレンスからは、統一的なナラティブではなく流動性に立脚した彼女の視点が見て取れる。2018年ヴォルフガング・ハーン賞受賞。これまでに、2022年コペンハーゲン国立美術館、2020年オントリオ美術館(トロント)、2020年テート・セント・アイブズ(イギリス・セントアイブズ)、2020年国立現代美術館(ソウル)、2019年ニューヨーク近代美術館、2018年ルートヴィヒ美術館(ケルン)、2016年ポンピドゥー・センター(パリ)、2015年サムスン美術館リウム(ソウル)、2012年ハウス・デア・クンスト(ミュンヘン)、2009年の第53回ヴェネツィア・ビエンナーレ韓国館など、世界的機関で個展を開催している。



**B5** アピチャッポン・ウィーラセタクン  
《静寂という言葉は静寂ではない》



**B5** 梁慧圭(ヤン・ヘギユ)  
《ソニックウェア-金色三角錐の手》



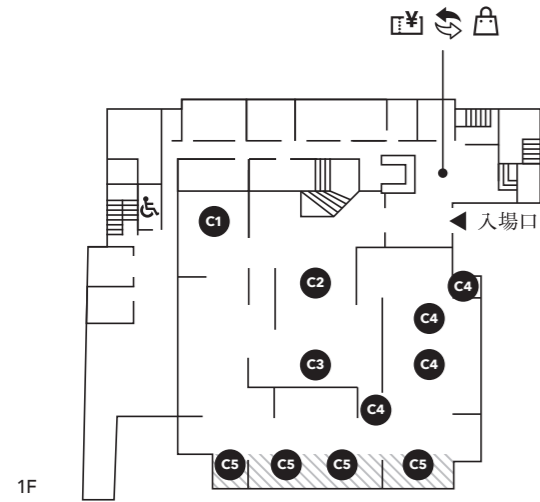
## 岡山市立オリエント美術館 Okayama Orient Museum



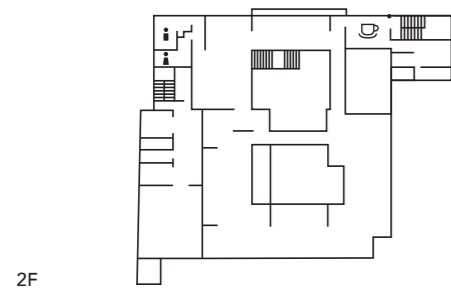
学校法人岡山学園(当時の理事長:安原真二郎氏)により、オリエントの考古美術品1,947点が寄贈されたことを機に1979年に開館した、国内唯一の公立オリエント専門美術館。開館後も資料の収集に努め、寄贈・寄託も加わり現在の収蔵品は約4,700点となっている。外光を巧みに取り入れた建築は、最高裁判所や警視庁本部庁舎、岡山県立美術館なども手掛けた岡田新一氏による。代表的収蔵品「有翼鷲頭精霊像浮彫」は新アッシリアの宮殿(前9世紀)を飾った壁面装飾の一部で、連続する部分は大英博物館などに所蔵される。

## C 岡山市立オリエント美術館 有料

会場 1階  
鑑賞券販売、前売引換、グッズ販売、Wi-Fiスポット  
作品 20作品



- C1** ラゼル・アハメド  
Rasel Ahmed  
《誰がタニヤを殺したか》  
Who Killed Taniya
- C2** リジア・クラーク  
Lygia Clark  
《花虫》  
《反対》  
《そのもの》  
《無脊椎動物》  
《機械》  
《全ての状況の記念碑》  
《キュビズムのパン》  
Flor [Flower]  
Contrário [Contrary]  
Em si [In itself]  
Invertebrado [Invertebrate]  
Maquina [Machine]  
Monumento a Todas as situações [Monument to All Situations]  
Pan Cubismo [Pan Cubism]



- C3** 梁慧圭(ヤン・ヘギユ)  
Haegue Yang  
《ソニックコスミックロープー金色12角形直線織》  
Sonic Cosmic Rope - Gold Dodecagon Straight Weave
- C4** 円空  
Enku  
《地藏菩薩》  
《神像》  
《釈迦如来》  
《薬師如来像》  
《観音菩薩像》  
《大黒天像》  
《観音菩薩像》  
Jizo Bosatsu (Kṣitigarbha)  
Seated male deity  
Shaka Nyorai (Śākyamuni)  
Yakushi Nyorai (Bhaiṣajyaguru)  
Kannon Bosatsu (Avalokiteśvara)  
Daikoku Ten (Mahākāla)  
Kannon Bosatsu (Avalokiteśvara)
- C5** フリーダ・オルパボ  
Frida Orupabo  
《手足》  
《花束を持つ女性》  
《憧れ / 女性》  
《カッソリーナ》  
Limbs  
Woman with bouquet  
Longing / woman  
Cassolina

## C 岡山市立オリエント美術館 有料

展示作品



**C1** ラゼル・アハメド  
《誰がタニヤを殺したか》



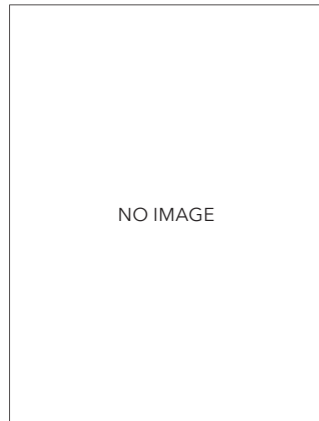
**C2** リジア・クラーク  
《花虫》  
《反対》  
《そのもの》  
《無脊椎動物》  
《機械》  
《全ての状況の記念碑》  
《キュビズムのパン》



**C3** 梁慧圭(ヤン・ヘギユ)  
《ソニックコスミックロープー金色12角形直線織》

# C 岡山市立オリエント美術館 有料

## 展示作品



C4 円空  
《地藏菩薩像》  
《神像》  
《釈迦如来像》  
《薬師如来像》  
《観音菩薩像》  
《大黒天像》  
《観音菩薩像》



C5 フリーダ・オルバボ  
《花束を持つ女性》



C5 フリーダ・オルバボ  
《手足》  
《憧れ / 女性》  
《カッソリーナ》



# シネマ・クレール丸の内 Cinema Clair Marunouchi



2001年に完成したシネマ・クレール丸の内は、世界の名作フィルムやアニメーション映画を多く提供している岡山唯一のミニシアター。コンクリート打ちっぱなしの独特な外観が、岡山市の歴史文化ゾーンにおいて存在感を際立たせている。

## D シネマ・クレール丸の内 有料

会場 2階1スクリーン  
作品 6作品



**D** アピチャッポン・ウィーラセタクン  
Apichatpong Weerasethakul  
《Films》  
Films

期間	上映開始時刻	作品名
9月30日(金) — 10月 2日(日)	各日12:05~	アピチャッポン本人が選ぶ短編集 #1 (110分)
10月 4日(火) — 10月 6日(木)	各日12:05~	アピチャッポン本人が選ぶ短編集 #2 (91分)
10月 7日(金) — 10月 9日(日)	各日12:05~	アピチャッポン監督『ブンミおじさんの森』(114分)
10月10日(月・祝) - 10月13日(木)	各日12:05~	アピチャッポン本人が選ぶ短編集 #1 (110分)
10月14日(金) — 10月16日(日)	各日12:05~	アピチャッポン本人が選ぶ短編集 #2 (91分)
10月18日(火) — 10月19日(水)	各日12:05~	アピチャッポン監督『ブンミおじさんの森』(114分)
10月20日(木)	12:05~	アピチャッポン本人が選ぶ短編集 #4 (90分)
10月21日(金) — 10月23日(日)	各日12:05~	アピチャッポン本人が選ぶ短編集 #3 (93分)
10月25日(火) — 10月27日(木)	各日12:05~	アピチャッポン本人が選ぶ短編集 #4 (90分)
10月28日(金) — 11月 3日(木・祝)	各日11:40~	アピチャッポン監督『MEMORIA メモリア』(136分)
11月 4日(金) — 11月 6日(日)	各日12:05~	アピチャッポン本人が選ぶ短編集 #3 (93分)
11月 8日(火) — 11月10日(木)	各日12:05~	アピチャッポン本人が選ぶ短編集 #4 (90分)
11月11日(金) — 11月13日(日)	各日12:05~	アピチャッポン本人が選ぶ短編集 #1 (110分)
11月15日(火) — 11月17日(木)	各日12:05~	アピチャッポン監督『ブンミおじさんの森』(114分)
11月18日(金) — 11月20日(日)	各日12:05~	アピチャッポン本人が選ぶ短編集 #2 (91分)
11月22日(火) — 11月24日(木)	各日12:05~	アピチャッポン本人が選ぶ短編集 #3 (93分)
11月25日(金) — 11月27日(日)	各日12:05~	アピチャッポン本人が選ぶ短編集 #4 (90分)

## 林原美術館 Hayashibara Museum of Art

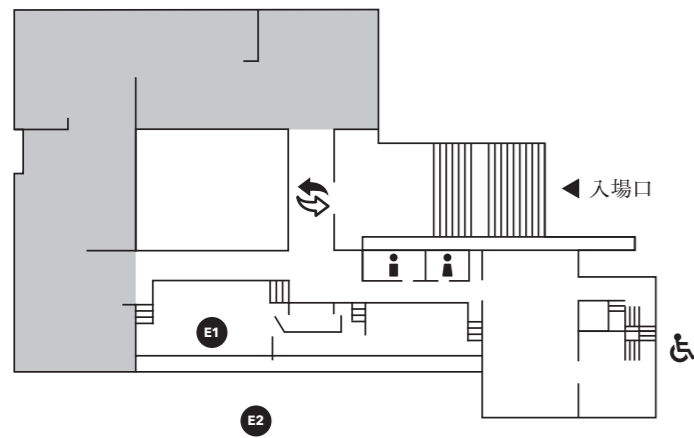


かつての岡山城二の丸郭の一角に位置し、1964年、林原一郎氏が蒐集していた古美術品をもとに開館した。国宝を含む国内屈指の刀剣コレクションのほか、岡山藩主池田家の伝来品や、現存を確認された国内唯一の平家物語絵巻の完本を所蔵していることでも知られている。設計は前川國男氏で、正門となっている長屋門は、岡山藩主池田家の分家・生坂藩池田家屋敷門を移築したものである。

## E 林原美術館

有料

会場 ロビー、庭  
 前売引換、Wi-Fiスポット  
 作品 2作品



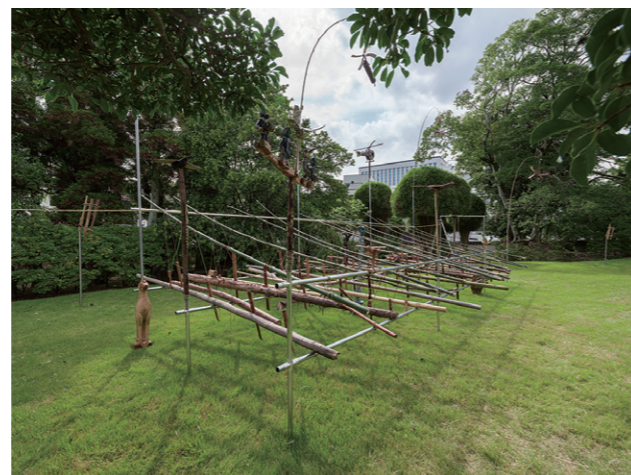
**E1** 王兵(ワン・ピン)  
 Wang Bing  
 《名前のない男》  
 Man with No Name

**E2** アート・レーパーとジャライ族のアーティストたち  
 Art Labor in collaboration with Jrai artists  
 《JUA - サウンドスケープの音》  
 JUA - SOUND IN THE SOUNDSCAPE

### 展示作品



**E1** 王兵(ワン・ピン)  
 《名前のない男》



**E2** アート・レーパーとジャライ族のアーティストたち  
 《JUA - サウンドスケープの音》

# 岡山市内各所

## Other location in Okayama



岡山城周辺エリアは、戦国時代末期の城下町創設以来の歴史を有し、現在でも城のほか、日本三名園の一つである岡山後楽園をはじめ各種博物館、美術館、文化施設が集積する岡山市を代表する観光地であり市民の憩いの場ともなっている。

# F - J 岡山市内各所 無料

会場 旧内山下小学校周辺の公有地・商業施設等

## F 岡山後楽園(観騎亭)

岡山市北区後楽園1-5  
 デヴィッド・メダラ  
 David Medalla  
 《サンドマシン-青い竹のバタンガス》  
 Sabd Nachine - Blue Bamboo Batangas  
 梁慧圭(ヤン・ヘギユ)  
 Haegue Yang  
 《瞑想-#131》  
 Meditation-Powered Pagoda Tree Soul Sheet  
 - Mesmerizing Mesh #131  
 ※入園料別途(鑑賞券提示で団体割引)

## G 岡山神社

岡山市北区石関町2-33  
 梁慧圭(ヤン・ヘギユ)  
 Haegue Yang  
 《波打つ髪のある靈魂長紙-魅惑的な網目#115》  
 《波打つ水掻きのある靈魂薄紙-魅惑的な網目#116》  
 Wave-Powered Webfooted Soul Sheet - Mesmerizing Mesh #115  
 Wave-Powered Webfooted Soul Sheet - Mesmerizing Mesh #116  
 マイリン・レイ  
 My-Linh Le  
 《良い夢の鬼》  
 demons of good dreams  
 アブラハム・クルズヴィエイガス  
 Abraham Cruzvillegas  
 《Kami No Michi》  
 Kami No Michi  
 アブラハム・クルズヴィエイガス  
 Abraham Cruzvillegas  
 《H2O》  
 H2O

## H 石山公園

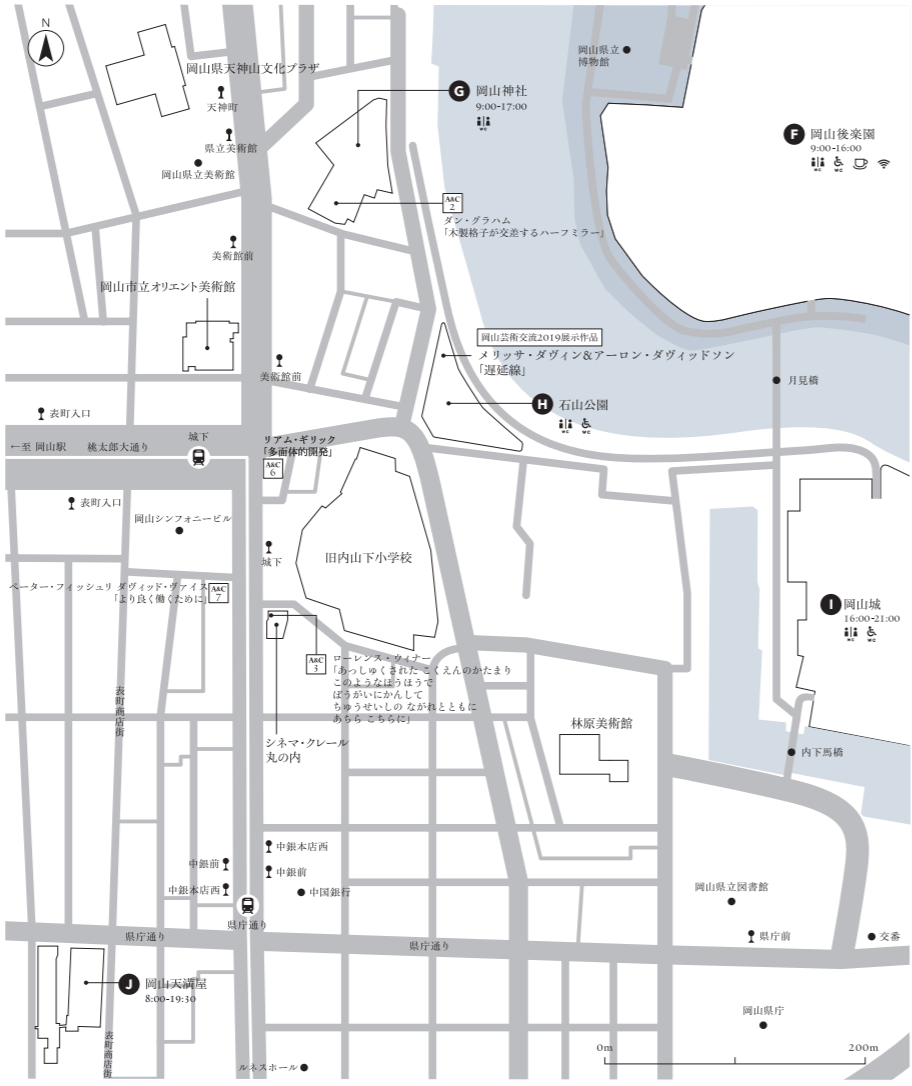
岡山市北区石関町7  
 梁慧圭(ヤン・ヘギユ)  
 Haegue Yang  
 《不透明な風-6つの折り畳み式三葉椅子》  
 An Opaque Wind - Trifold Seating in Six Folds

## I 岡山城(中の段)

岡山市北区丸の内2-3-1  
 池田亮司  
 Ryoji Ikeda  
 《data.flux [LED version]》  
 data.flux [LED version]  
 ※上映時間 16:00~21:00

## J 岡山天満屋(表町商店街側ショーウィンドウ)

岡山市北区表町2-1-1  
 片山真理  
 Mari Katayama  
 《just one of those things》  
 just one of those things



F デヴィッド・メダラ  
《サンドマシン-青い竹のバタンガス》



F 梁慧圭(ヤン・ヘギユ)  
《瞑想-#131》

# F - J 岡山市内各所 無料

展示作品



G 梁慧圭(ヤン・ヘギユ)  
《波打つ髪のある靈魂長紙-魅惑的な網目#115》  
《波打つ水掻きのある靈魂薄紙-魅惑的な網目#116》



G マイリン・レイ  
《良い夢の鬼》



G アブラハム・クルズヴィエイガス  
《kami No Michi》



G アブラハム・クルズヴィエイガス  
《H2O》

## F - J 岡山市内各所 無料

### 展示作品



H 梁慧圭  
《不透明な風-6つの折り畳み式三葉椅子》



I 池田亮司  
《data.flux[LED version]》



J 片山真理  
《just one of those things》

## Ⅲ 内覧会・レセプション・オープニング